

平成26年度要覧



埼玉県立

歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

設置の目的・事業

埼玉県立歴史と民俗の博物館は、旧県立博物館と旧県立民俗文化センターを統合し、平成18年4月1日に誕生した歴史、民俗、古美術の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である。

母体となった2館のうち、旧県立博物館は、昭和46年11月、明治4年の埼玉県誕生から100年を記念して、人文系総合博物館として開館したものである。その後、昭和57年11月の県立近代美術館の開館を機に、展示室を全面的に改装して歴史系博物館に衣替えし、昭和58年11月に新装開館している。

一方、昭和55年11月に開所した旧県立民俗文化センターは、民俗芸能及び民俗工芸を調査研究の対象とする施設としては全国に先駆けた存在であった。

その後、平成17年2月に策定された「県立博物館施設再編整備計画」により両館が統合され、収蔵資料はもとより長年培ってきた調査研究の成果を結集して、新たに「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として発足したものである。

当館設置の目的は、資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図ることにより、教育や学術、文化の発展に寄与することにある。その目的を達成するために、次の事業を行っている。

- 1 郷土埼玉の文化を総合的に捉え、その変遷と発展を知るための歴史及び民俗資料等について調査研究し、収集・保管し、展示する。
- 2 資料を適正に管理するとともに、文化財保存機関としての事業を行う。
- 3 資料の利用に関する必要な解説、案内、指導、助言等を行う。
- 4 資料に関する講演会、講習会、実演会、研究会等を主催し、開催を援助する。
- 5 資料に関する案内書、解説書、図録、調査報告書等を刊行し、頒布する。
- 6 他の博物館、学校その他の関係機関等と協力し、その活動を援助する。
- 7 その他当館の目的を達成するために必要な事業を行う。

目次

設置の目的・事業	1
沿革	2
平成26年度事業計画	3
平成25年度事業報告	12
平成25年度入館者数	25
展示概要等	26
組織及び職員構成	29
施設設備	31
資料	34
利用案内	38

沿革

昭和

34年12月 埼玉県立博物館の設置についての請願を
県議会において採択

43年8月 埼玉県立博物館建設基本構想を決定

11月 設計を(株)前川國男建築設計事務所へ委託

44年9月 博物館建設工事費として13億円を計上

10月 県立文化会館を廃止し、新たに県立博物館
準備事務所を県立浦和図書館内に設置

46年11月 埼玉県立博物館条例を制定、開館

47年9月 「太平記絵巻(巻第一)」を購入

12月 博物館法第11条に基づく登録博物館となる

51年1月 文化財保護法第48条に基づく国宝・重要文
化財の勧告・承認出品の展示館となる

52年4月 5月5日(祝)を開館日とする

55年4月 4月29日(祝)、5月3日(祝)を開館日
とする

11月 埼玉県立民俗文化センター開所

58年11月 埼玉県立博物館新装開館、開館記念特別展
「武蔵武士」開催

12月 国宝「太刀」(銘備前国長船住左兵衛尉景光)
を購入

60年4月 エントランスホール、館庭等を無料開放
元日を除く国民の祝日を開館日とする

平成

3年10月 開館20周年記念展「さいたまの名宝」
開催。記念図録出版

5年4月 国宝「短刀」(銘備前長船住景光)を購入

6年3月 障害者対応型エレベータ設置

6年4月 高齢者(65歳以上)及び障害者等の入館料
無料化。幼児コーナー及び休憩コーナーを
開設

平成

7年4月 義務教育終了前の者の入館料無料化

10月 「太平記絵巻(巻第七)」を購入

8年4月 「太平記絵巻(巻第二)」を購入

10年6月 インターネットのホームページ開設

11月 当館が「公共建築百選」に選定

12年5月 拡大常設展「博物館の広場」開催

13年11月 「太平記絵巻(巻第十)」を購入

14年5月 2002 FIFA ワールドカップ™ 記念特別展
「蹴鞠-KEMARI」開催

7月 「太平記絵巻(巻第六)」を購入

11月 当館が第4回日本建築家協会25年賞受賞

16年10月 清子内親王殿下 お成り

**18年4月 県立博物館施設再編整備計画により、埼玉
県立博物館と埼玉県立民俗文化センターを
統合、埼玉県立歴史と民俗の博物館設置**

19年3月 関東地区博物館協会初の共同企画展「祈り
の風景—埼玉の絵馬—」開催

4月 体験学習施設「ゆめ・体験ひろば」を開設

20年3月 大規模改修及び耐震補強工事第I期完了

21年10月 交流企画展「出張博物館 in 深谷」開催
「まなびピア埼玉2009」出展

22年2月 大規模改修工事第II期完了

23年3月 大規模改修工事第III期完了
階段昇降機設置

24年9月 天皇皇后両陛下 行幸啓

25年6月 秋篠宮文仁親王殿下 お成り

7月 65歳以上の観覧料減免措置廃止

平成26年度 事業計画

◆事業運営の基本方針

1 事業運営の方針

平成18年4月、当館は、歴史、民俗、古美術の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として再出発を果たした。

以来、常設展示室及び収蔵庫の改装、資料の一元的管理の実施、ゆめ・体験ひろばの開設等の事業を着実に進めることで新しい博物館としての体制を整えるとともに、耐震改修及び大規模改修工事を実施し、より安全、安心な施設として生まれ変わっている。

平成26年度は、博物館事業の基本となる調査研究に基づいた資料の収集、保管及び展示等での活用の充実に努めながら、学習支援事業や広報活動を推進し、学校や社会教育機関との連携を深め、県民利用の一層の促進を図るとともに、県内の歴史と民俗に関する資料情報センターの役割を果たすべく努力する。

また、県民の生涯学習の定着や協働参画意識の高まり、少子高齢化社会に対応して、児童生徒から高齢者まで幅広い層の県民に対して、より親しみやすい展示と、参加しやすい学習機会を提供できるよう工夫するなど、誰にも優しい博物館づくりを進める。

2 事業運営の重点

上記の方針に基づき、今年度は次の事項を事業運営の重点とする。

- (1) 調査研究に基づく、資料の収集・保管と展示の充実
- (2) 常設展及び特別展に関わる調査と資料収集、展示の充実
- (3) 特別展年3回及び企画展年2回の開催
- (4) 県民の学習支援の推進と講座・講習会等の充実
- (5) 体験学習ボランティア及び展示解説ボランティアの育成
- (6) 広聴・広報活動の一層の充実
- (7) 学校教育、地元自治会等、地域社会との連携

◆主要事業計画

1 調査研究事業

- (1) 「埼玉の地方文化とその特性ー地域文化圏に関する調査研究ー」を館職員の調査研究共通テーマとし、その成果は『紀要』に掲載
- (2) 『紀要』第9号の編集、発行
- (3) 調査報告書「埼玉の夏祭り調査概報Ⅲ」の刊行
- (4) 映像資料「埼玉の夏祭り調査概報Ⅲ」の収録
- (5) 常設展示室10室（民俗）の展示替えにかかる資料調査及び展示替えの実施
- (6) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (7) 第4回ミュージアムフォーラム（県立博物館学芸員合同研究発表会）の開催

2 資料調査事業

- (1) 資料の収集

博物館固有の魅力的なコレクションの形成・充実に重点を置いた購入・受贈を図り、さらに無形民俗文化財の映像等による記録保存にも努める。

(2) 資料の整理・保存・管理

収集した資料を整理し、保存・管理に万全を期するほか、劣化の進んだ資料については修理を実施する。さらに総合的有害生物管理(Integrated Pest Management 略してIPM)を実施して、虫菌害予防のための資料保存・管理及び対策を図る。

(3) 館施設の防虫消毒 第1期 6/17(火)～6/18(水) 休館期間 6/16(月)～6/23(月)

第2期 12/8(月)～12/9(火) 休館期間 12/8(月)～12/9(火)

(4) 博物館裏方探検隊 普段見ることのできない博物館のバックヤードを学芸員が案内する。

原則毎週土曜日の午後実施 対象：一般県民 定員：なし

(5) 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設にある当館所蔵の民俗資料を適切に管理する。

3 常設展示事業

(1) 展示替え

① 歴史展示(第9室の人物コーナー)

埼玉ゆかりの人物を紹介する。「下総暎一」H25.10/29(火)～H26.4/20(日)、「大川平三郎」H26.1/28(火)～5/25(日)、「北村西望」5/27(火)～7/27(日)、「石川三四郎」7/29(火)～10/26(日)、「井沢弥惣兵衛」10/28(火)～H27.1/25(日)、「斎藤与里」1/27(火)～を展示する。

② 美術展示(第4室美術展示室)

「近代版画」H26.2/4(火)～4/6(日)、「信仰と美術」4/8(火)～6/15(日)、「江戸の“写”文化」6/24(火)～9/7(日)、「三十六歌仙額」9/9(火)～11/16(日)、「円空仏」11/18(火)～H27.2/15(日)、「戯画・漫画」2/17(火)～というテーマで展示する。

③ 民俗展示(第10室民俗展示室)

民俗展示室のテーマ「日々を生きる～衣食住～」の中で、「昔の暮らし」をテーマに2期に分けてコラム展示を実施する。「昔の暮らし」は、小学生の団体利用向けの内容とする。なお、民俗展示室の全面展示替えを年末に実施する。

④ 季節展示(季節展示室)

四季折々のテーマや、特別展に関連したテーマの小展示を実施する。「特別展関連：屋根裏部屋の博物館」H26.3/21(金)～5/6(火)、「新収集品展」5/10(土)～6/15(日)、「特別展関連：江戸の街道」6/24(火)～8/31(日)、「館有コレクション(秋)」9/6(土)～10/5(日)、「特別展関連：甦る鉄剣」10/11(土)～11/24(月)、「館有コレクション(冬)」11/29(土)～H27.1/25(日)、「稲村坦元コレクション」1/31(土)～

⑤ 定例展示替え

毎月最終月曜日に展示替えを行う。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝：慈光寺経 H26.4/8(火)～6/15(日) 第4展示室

国宝：太刀・短刀の公開 H26.11/22(土)～H27.2/1(日) 第3展示室

重文：熊野神社境内古墳出土品(桶川市・熊野神社) 通年 第2展示室

(3) 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」

期日：H26.7/12(土)、7/26(土)、8/2(土)、8/9(土)、8/23(土)の全5回

対象：一般

定員：40名

(4) 展示解説ボランティアの育成と運営

ボランティアによる常設展の展示解説を、開館期間中、原則毎日行う。

(5) 民俗工芸実演

「だるま作り」H26.4/27(日)、「和紙折り紙」H27.2/1(日)

4 特別展・企画展示事業

(1) 特別展

名称・開催期間	展 示 内 容
<p>特別展</p> <p>「渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 －Attic Museum－」</p> <p>H26.3/21（金）～5/6（火）</p>	<p>渋沢栄一の後継者として経済界で活躍し、敗戦前後に日銀総裁や大蔵大臣の要職を務めた渋沢敬三には、優れたリーダーシップを発揮する民俗学者という別の顔があり、自らアチックミュージアム（屋根裏部屋の博物館）を主宰してさまざまな民俗資料を収集した。本展示では、国立民族学博物館との共催により、アチックミュージアムの収集活動を中心に敬三の学術的な面での功績を紹介する。併せて渋沢敬三の父祖の地である深谷市の血洗島や渋沢家に関する資料、アチックミュージアムで収集された埼玉県に関連する資料を展示・紹介する。</p> <p>開催日数：41日 展示資料：373点</p> <p>[関連事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 演題「渋沢栄一から敬三へ」 講師：井上潤氏（渋沢史料館館長） 日時：4/19（土） 13：30～15：00 定員：150名 ・歴史民俗講座 日時：4/26（土） 13：30～15：00 定員：150名 ・民俗芸能公演「渋沢家ゆかりの血洗島獅子舞」 日時：3/21（金） 13：30～15：00 ・展示解説 ・民俗工芸実演「だるま作り」 日時：4/27（日）
<p>特別展</p> <p>にっぽん歴史街道 「江戸の街道（みち） ～絵図でたどる宿場と関所～」</p> <p>H26.7/19（土）～8/31（日）</p>	<p>五街道分間延絵図は、中山道や日光道中など五街道のほか、主要街道や宿駅の取り締まりのための基本情報を収集するために、寛政12（1800）年から約7年かけて江戸幕府が作成した街道の絵図である。1/1800の縮尺で、街道沿いの家並みや一里塚、陣屋、関所、社寺を詳細に描いており、江戸時代後期の街道を知る上で第一級の資料として、国指定の重要文化財となっている。そして、將軍献上本（紅葉山文庫旧蔵本）は東京国立博物館、道中奉行所旧蔵本は郵政博物館に収蔵されている。</p> <p>今回の展覧会は、両館に収蔵される絵図を初めて同時公開することにより、全容を一望できる場とするとともに、書式や体裁の相違点を明らかにする。このほか、関所や船橋など、街道と旅に関する様々な資料を展示し、小中学生を対象とした講座を実施するなどして、夏休みに親子で楽しめる、また身近な「歴史の道」を再発見していただく機会としたい。</p> <p>開催日数：39日 展示資料：約280点</p>

名称・開催期間	展 示 内 容
	<p>[関連事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念講演会「近世・近代の街道絵図について」 日時：7/27（日） 13：30～15：00 講師：山本光正氏（元国立歴史民俗博物館教授） ・ 歴史民俗講座 日時：7/19（土） 13:30～15:00 定員：150名 ・ 展示解説 ・ ジュニア講座「江戸時代の旅を体験しよう！」 ・ 3館トークセッション「ちょっと一服。街道よもやま話」
<p>特別展</p> <p>「甦る鉄剣」</p> <p>H26. 10/11（土）～11/24（月）</p>	<p>昭和 43 年、行田市埼玉古墳群の稲荷山古墳礫塚から鏡や挂甲・馬具類と刀剣類等の遺物が出土し、このうちの 1 本の剣から 115 文字の銘文が発見され国宝に指定された。この鉄剣を、現代の刀工達が 7 年の歳月をかけて復元し、平成 25 年度に埼玉県に寄贈したことを受けて、復元された鉄剣と鉄剣に係わる資料を紹介するものである。</p> <p>展示では、刀工達の使用した道具や刀剣の製作工程などとともに、絵巻や絵馬などに描かれた刀鍛冶師・研師・象嵌師の姿を紹介する。また、埼玉県出土の象嵌大刀を一堂に展示して、古墳時代の刀剣にも目を向けてもらえる機会とする。さらに、甲冑などの武器・武具類や武人埴輪等から、古墳時代の武人・杖刀人の姿を紹介する。</p> <p>稲荷山古墳のある埼玉古墳群を分かりやすく学べるように、古写真や最先端技術で実施している測量成果等を展示し、現在の埼玉古墳群の景観を多くの方に知っていただく。</p> <p>開催日数：41日 展示資料：約140点</p> <p>[関連事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念講演会 I 「飾り太刀の世界」 日時：11/8（土） 講師：滝瀬芳之氏（(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団総務部副部長） ・ 記念講演会 II 「日本列島における古墳時代武装の特色と武器武具の社会的役割」 日時：11/15（土） 講師：古谷毅氏（東京国立博物館主任研究員） ・ 歴史民俗講座「東国経営を担った古代豪族」 日時：10/18（土） 13：30～15：00 定員：150名 ・ 展示解説 ・ 埼玉古墳群見学会 日時：11/22（土） 13：30～15：00 場所：さきたま史跡の博物館・埼玉古墳群

(2) 企画展

名称・開催期間	展 示 内 容
<p>企画展</p> <p>「埼玉の自由民権」</p> <p>H27. 1/2 (金)～2/15 (日)</p>	<p>平成 26 年度は自由民権運動における最大の激化事件である、秩父事件 (明治 17 年) から 130 年、埼玉で最初の民権結社、七名社の結成 (明治 8 年) から 140 年にあたる。これを機に「埼玉の自由民権」をテーマに自由民権運動の始まりから秩父事件を含む運動の展開までを紹介する企画展を開催する。</p> <p>自由民権運動は明治時代において、国会開設や地方自治をめざし、近代社会をつくりあげようとする一大国民運動だった。板垣退助など著名な士族が広めた自由民権の思想は、各地の豪農に受け入れられ、埼玉県内にも七名社や通見社など多くの民権結社ができ、盛んな活動を展開した。自由民権思想にふれた自由党员と農民が組織した困民党が、折からの不況による生活難を訴え、蜂起したのが秩父事件である。</p> <p>本展ではこの節目の年にあたり、教科書などで目にすることはあっても、いまだ県民によく知られているとはいえない日本史のなかの自由民権運動、そして、県内での自由民権運動の広がりや秩父事件の意味を、貴重な歴史資料など豊富な資料で、わかりやすく親しみながら学べるよう展示し、県民に紹介する。</p> <p>開催日数：40日 展示資料：約150点</p> <p>〔関連事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会 ・ 歴史民俗講座 日時：1/24 (土) 13:30～15:00 定員：150名 ・ 映画上映会 ・ 展示解説
<p>企画展</p> <p>「氷川神社と大宮公園」</p> <p>H27. 3/21 (土) ～5/10 (日)</p>	<p>大宮公園は、明治 17 (1884) 年に開設が決まり、その翌年「氷川公園」の名で開園して以来、多くの人々に親しまれてきた。とりわけ、大正から昭和にかけては広く東京近郊から来園者を集める行楽地としても知られ、多くの文学者がその作品の舞台としてきたところでもある。また、あまり知られていないが、公園内の陸上競技場兼双輪場は、幻となった昭和 15 (1940) 年に開催予定の東京オリンピック大会のために建設されたものである。</p> <p>このほかにも、公園内には文化やスポーツ、娯楽に関する施設が点在しているが、当館はその一角に昭和 46 (1971) 年に開館し、埼玉県を代表する博物館の一つとしてさまざまな事業を行ってきた。</p> <p>本展示では、大宮公園の開園 130 年にちなみ、氷川神社の歴史と文化財、大宮公園の歩み、園内の施設・遺跡・自然、大宮公園を題材にした美術・文学作品などについて紹介すると共に、当館の前身である埼玉文化会館以来の博物館の歩みについて紹介する。併せて「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」事業とその参加施設についても紹介し、大宮公園とその周辺の魅力を広く県民にアピールする。</p> <p>開催日数：45日 展示資料：約200点</p>

名称・開催期間	展 示 内 容
	[関連事業] ・講演会 ・現地見学会

(3) 平成27年度開催予定特別展・企画展の準備

5 学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座（6回）

一般県民を対象に歴史民俗講座を開催し、郷土埼玉の歴史や民俗に関する知識と関心を深めてもらうとともに、博物館に対する理解を得ることを目的とする。

期日：H26.4/26（土）、7/19（土）、9/20（土）、10/18（土）、12/13（土）、H27.1/24（土）
各日とも13:30～15:00

対象：一般

定員：各150名

② 博物館教育利用セミナー

博物館のもつ文化資源を、より多面的な授業展開に活用することを目的とした教育利用セミナーを開催する。

期日：学校夏季休業中

対象：小・中・高・特別支援学校教員

定員：30名

③ 出前授業

博物館の職員が教員との連携を図りながら学校現場に出向き「古代から教室へ」や「昔の道具体験」などを実施する。

期間：通年（随時受入れ）

対象：小・中学校

④ 博物館クルーの育成・活用

「ゆめ・体験ひろば」等の体験メニューや博物館の事業の運営に協力するための高度な技術を持つ人々を育成し、活用する。

⑤ キッズクルーの募集

将来の埼玉文化の継承者や良き博物館利用者の育成及び特別体験事業等における子供対象事業への参加促進を図るため、「キッズクルー」の募集を行う。

対象：県内在住の小学生中心

⑥ 特別体験事業

体験を通して、歴史や文化の変遷と歴史的背景に対する理解を深めることを目的とする。

ア 「十二単・小桂の着装体験」

期日：①H26.4/12（土）②10/18（土）③H27.1/10（土）

対象：女性限定・小中学生と大人

定員：各14名

イ 「十二単・小桂と男子装束の着装体験」

期日：H26.5/17（土）、12/6（土）、H27.3/7（土）

対象：小学生以上（十二単と小桂は女性限定）

定員：各日14名

ウ 「鎧の着装体験」

期日：H27.2/21（土）

対象：大人

定員：14名

エ 「火起こし体験教室」

期日：H26.11/29（土）、H27.2/14（土）、3/14（土）

対象：小学生以上

定員：各日20名

オ「お囃子体験教室」

期日：H26.6/29（日）、11/9（日）

対象：児童・生徒・一般（未就学児は保護者同伴）

定員：各日25名

カ「ベーゴマ教室」

期日：H26.10/25（土）

対象：中学生以下

定員：40名

キ「けん玉教室」

期日：H26.11/14（金）

対象：中学生以下

定員：40名

(2) 実習・研修等の受入れ

① 博物館学芸員実習（7日間）

期間：H26.7/1(火)～7/4(金)、7/8(火)～7/9(水)及び7/10(木)～8/31（日）までのうち、当館が指定する1日

定員：45名

② 博物館見学実習

期間：通年（随時受入れ）

③ 教員研修等の受入れ

④ 総合的な学習・中学生職場体験・インターンシップ・教員ボランティアの受入

期間：通年（随時受入れ）

(3) ボランティアの育成及び共同事業

① ボランティアの受入れ

② 体験学習ボランティアの育成と運営

6 ゆめ・体験ひろば事業

「ゆめ・体験ひろば」は、「自由自在座」、「ものづくり工房」、「昭和の原っぱ」の3つのエリアから構成された施設で、平成19年度から稼働を始めた体験学習ゾーンである。地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを提供することで、埼玉の歴史や文化を楽しみながら学べる場として利用促進を図る。

(1) 「ものづくり工房」通常体験メニュー

期日：通年

対象：児童・生徒・一般（未就学児は保護者同伴）

定員：なし、当日受付

① 絞り藍染めハンカチ

② 江戸組紐ストラップ

③ 絵馬

④ 歴史百景

⑤ 絵巻物

⑥ まが玉

⑦ 浮世絵スリスリマシン

⑧ 季節のミニアート

⑨ 編布コースター（平成26年度新規メニュー）

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

① 藍染め風呂敷作り

期日：H26.5/22（木）

対象：大人

定員：16名

② 藍染めストール作り

期日：H26.7/4（金）、7/5（土）

対象：大人

- 定員：各日16名
- ③ 型付け藍染め
期日：H27.3/8（日）
対象：大人
定員：12名
- ④ 江戸組紐ロングネックレス作り
期日：H26.10/17（金）
対象：大人
定員：20名
- ⑤ 江戸組紐帯締め作り
期日：H27.2/13（金）、2/20（金）（2週連続）
対象：大人
定員：20名
- ⑥ ミニ銅鏡作り
期日：H27.1/24（土）
対象：小・中学生
定員：20名
- (3) 「昭和の原っぱ」イベント
- ① 「博物館子供まつり～射的遊び・兜をかぶろう」
期日：H26.5/5（月）
対象：中学生以下
- ② 「博物館春まつり～ポン菓子作りの実演」
期日：H27.3/21（土）
対象：児童・生徒・一般

7 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会の運営等（会長・事務局）
- ① 総会・理事会・研究会・講習会・見学会・県外研修会等の開催
- ② ホームページの管理・運営
- (2) 関東地区博物館協会の運営（監事）
- (3) 日本博物館協会の活動（参与）
- (4) 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会との連携・交流
- (5) 県政出前講座の受け入れ
- (6) 埼玉県文化財保護協会との共催による文化財講習会の開催 H26.7/30（水）～8/1（金）3日間
- (7) ミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会の運営等（会長・事務局）
- (8) その他関係団体・民間企業との連携

8 県立博物館施設再編整備計画の推進

- (1) 県立博物館施設総合調整推進会議の開催
- (2) 学芸員の資質向上（新採用学芸員の研修、研究履歴の整備等）

9 広聴広報

- (1) 広聴
- ① 講座・講演会・特別展等アンケート計画の策定と実施
- ② 入館者からの意見聴取計画の策定と実施
- (2) 広報
- ① イベントガイド・博物館だより・ポスターほか
- ② 彩の国だより・県教委だよりほか
- ③ 新聞・雑誌・テレビ・ラジオほか
- ④ インターネットによる情報発信
- ⑤ 当館ホームページの管理・運営

10 各種印刷物の刊行

- (1) 『紀要』第9号
- (2) 調査報告書「埼玉の夏祭り調査概報Ⅲ」
- (3) 国宝金錯銘鉄剣復元制作報告書
- (4) 展示図録
 - ① 特別展「にっぽん歴史街道『江戸の街道（みち）～絵図でたどる宿場と関所～』」
 - ② 特別展「甦る鉄剣」
- (5) その他
 - ① 平成27年度イベントガイド
 - ② 見学のしおり
 - ③ 平成26年度博物館要覧
 - ④ 歴史と民俗の博物館だより（第25～27号）
 - ⑤ 新収集品展2012・2013パンフレット
 - ⑥ 講座・講演会・体験学習等のテキスト
 - ⑦ 学校と博物館の連携利用案内（平成27年度版）

11 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期する。

平成25年度 事業報告

1 調査研究事業

分野ごとの基礎的・分類的・形態学的調査研究、展示・教育・運営等博物館活動の諸分野に関する研究、資料の収集・保存に関する技術的研究など、博物館活動の基礎となる調査研究のほか、次の事業を行った。

- (1) 常設展示資料にかかる資料研究
- (2) 『紀要』第8号の刊行（700部）
- (3) 調査報告書「埼玉の夏祭り調査概報Ⅱ」の刊行（600部）
- (4) 無形民俗文化財「埼玉の夏祭り」の映像による記録保存
- (5) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (6) ミュージアムフォーラム2014（県立博物館学芸員合同研究発表会）「旅」の開催
- (7) 博物館ブックレット第2集『絵で語る埼玉の民話』の刊行（1,200部）

2 資料の収集・保存・管理事業

常設展示や特別展示等の充実及び歴史系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集方針及び資料評価会議の指導に基づき資料を収集した。

また、資料の虫菌害対策や、保存環境の整備のため、定期的に清掃を実施した。

(1) 資料の収集

新たに18件1,067点の資料を収集した。

① 購入（9件16点）

・埼玉県布達	1点
・本庄市設置申請書	1点
・埼玉県布達（明治17年）	2点
・ポスター 埼玉県保健婦養成所講習生募集！	1点
・衆議院議員肖像	2点
・最新版金入玉カード原爆長カード メンコ	1点
・足軽胴	6点
・武州子の山（川瀬巴水）	1点
・高崎江戸間道中分間絵図	1点

② 受贈（9件1,051点）

・稲荷山古墳出土国宝金錯銘鉄剣復元模作	1点
・池原昭治「絵で語る埼玉の民話」ポスター原画・ラフスケッチ・題字	41点
・矢（台含む）	21点
・伝単	1点
・自転車 マルワイ号標準車	1点
・船渡張り子関係資料	569点
・砂原張り子関係資料	17点
・中小企業情報 創刊号	1点
・旧長瀬総合博物館所蔵資料	399点

(2) 資料の整理・保存・管理

① 資料管理

ア	I P M推進委員会の開催	4月18日(木)、3月11日(火)
イ	収蔵庫定期清掃の実施	月2回(第2・4木曜日)
ウ	有害生物環境調査の実施	月1回(月末火曜日又は水曜日)
エ	収蔵庫ほか忌避剤散布作業	6月18日(火)～6月19日(水) 12月9日(月)～12月10日(火)
オ	搬入展示資料等の燻蒸	9月30日(月)～10月1日(火) 10月2日(水)～10月16日(水) 2月24日(月)～2月26日(水)

② 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設にある当館所蔵の民俗資料の管理

ア	収蔵庫定期清掃の実施	6回
イ	有害生物調査の実施	12回

(3) 資料の貸出、特別利用(フィルム等の貸出、資料の熟覧等)

①	貸出	徳川美術館ほか	20件(187点)
②	特別利用	株式会社TBSテレビほか	163件(553点)

3 常設展示事業

「埼玉における人々の暮らしと文化」をメインテーマに、総合的な視野で時代の推移が理解できるような展示に努めた。調査や研究に基づく展示替えや特別公開などにより、展示内容の充実を図った。

(1) 定例展示替え 計20回

(2) トピック・特集展示等

① 歴史展示

<人物コーナー(第9室)>

「前田夕暮・男山応輔」	4月2日(火)～4月21日(日)
「川村碩布(江戸時代の俳諧師)」	4月23日(火)～7月28日(日)
「戸賀崎知道軒(久喜市出身の剣豪)」	4月23日(火)～10月27日(日)
「鹿児島寿蔵(熊谷に疎開した歌人・人形作家)」	7月30日(火)～1月26日(日)
「下総皖一(作曲家)」	10月29日(火)～4月20日(日)
「大川平三郎(日本の製紙王)」	1月28日(火)～5月25日(日)

<特集コーナー>

「新島八重の生きた時代～ペリー来航から戊辰戦争まで～」	5月28日(火)～8月25日(日)
「安政江戸大地震と鯰絵」	8月27日(火)～11月24日(日)
「埼玉じてんしゃ物語」	10月1日(火)～11月17日(日)
「午歳の総開帳 埼玉の札所めぐり」	1月2日(木)～3月30日(日)

② 美術展示(第4室)

「花鳥の世界」	3月5日(火)～4月14日(日)
「指定文化財」	4月16日(火)～6月16日(日)
「装・飾・楽の世界」	6月25日(火)～7月28日(日)
「円空仏」	7月30日(火)～10月6日(日)
「橋本雅邦」	10月8日(火)～11月24日(日)
「もののふの世界」	11月26日(火)～2月2日(日)

「近代版画」	2月 4日 (火) ~ 4月 6日 (日)
③ 民俗展示 (第10室)	
「家作り」	4月 2日 (火) ~ 4月21日 (日)
「籠と箆」	4月23日 (火) ~ 6月16日 (日)
「魚を獲る」	6月25日 (火) ~ 9月29日 (日)
「稲から米へ」	10月 1日 (火) ~ 1月26日 (日)
「履く」	1月28日 (火) ~ 4月20日 (日)

④ 季節展示

季節展示室では、四季折々に時宜にあったテーマの小展示を実施すると共に、工事のため休館中であった県立近代美術館の収蔵資料展示を開催した。

「弥生土器の美」	4月 2日 (火) ~ 5月 6日 (月)
「旅の楽しみ～駅弁～」	5月11日 (土) ~ 7月15日 (月)
「埼玉の風景～池原昭治 童絵の世界」	7月20日 (土) ~ 9月 1日 (日)
「埼玉の武術」	9月 3日 (火) ~ 10月 6日 (日)
「木挽町狩野家」	10月12日 (土) ~ 11月24日 (日)
埼玉県立近代美術館展「風光彩美ー埼玉・四季の輝き／近代美術館のコレクションから」	11月30日 (土) ~ 3月16日 (日)
「屋根裏部屋の博物館」	3月21日 (金) ~ 3月30日 (日)

(3) 国宝・重要文化財の勧告・承認出品等による展示

① 所有者による展示

国宝 太刀・短刀	11月23日 (土) ~ 2月 2日 (日)
----------	------------------------

② 勧告

国宝 法華経一品経 (ときがわ町・慈光寺)	4月16日 (火) ~ 6月16日 (日)
重要文化財 熊野神社境内古墳出土品 (桶川市・熊野神社)	4月 2日 (火) ~ 3月30日 (日)

③ 承認

重要文化財 雲版 (飯能市・長光寺)	2月25日 (火) ~ 3月30日 (日)
重要文化財 釈迦三尊及阿難迦葉像 (越生町・法恩寺)	4月16日 (火) ~ 5月12日 (日)
重要文化財 銅造阿弥陀如来立像 (神川町・光明寺)	4月 2日 (火) ~ 2月 2日 (日)

④ 寄託

重要文化財 三十六歌仙額 (川越市・仙波東照宮)	4月16日 (火) ~ 6月16日 (日)
--------------------------	-----------------------

(4) 民俗芸能講習会「おかめ・ひょっとこの舞い」

期 日 6月1日 (土)、8日 (土)、15日 (土)、29日 (土) の全4回
 受講者 45名 (4日間延べ155名、見学者延べ49人)

4 特別展示・企画展示事業

当館の主催又は関係団体との共催により、特定のテーマに基づいて資料を収集・構成し、特色ある特別展・企画展を開催した。

(1) 特別展「発掘された木の道具」

期 日 平成25年3月23日 (土) ~ 5月6日 (月)
 趣 旨 条件が良くないと残らない木器から、土器や石器などからは分からない、原始・古代の人々

の生活を考えると共に、近現代の木の道具との比較を試みた。

展示資料総数 206点

開館日数 40日

会期中観覧者 4,425名

[関連事業]

- ・記念講演会「木器を作る技術、使う技術」

期 日 4月21日(日)

講 師 山田 昌久氏(首都大学東京大学院人文科学研究科 教授)

参加者 121名

- ・遺跡見学会「吉見の百穴・吉見町埋蔵文化財センター」

期 日 4月26日(金)

参加者 32名

- ・歴史民俗講座「木器からわかること」

期 日 4月13日(土)

講 師 西口 正純(当館学芸主幹)

参加者 73名

- ・展示解説

期 日 平成24年度：3月23日(土)、30日(土)

平成25年度：4月6日(土)、20(土)、27日(土)、5月4日(土)

参加者 6回計130名

- (2)企画展「絵で語る埼玉の民話―池原昭治・童絵の世界―」

期 日 平成25年7月20日(土)～9月1日(日)

趣 旨 狭山市在住の池原昭治先生が描いた心あたたまる「童絵」により、埼玉県内に伝わる民話を紹介した。

展示資料総数 177点

開館日数 38日

会期中観覧者 5,018名

[関連事業]

- ・記念講演会「埼玉のおもしろ絵ときで語る民話」

期 日 8月25日(日)

講 師 池原昭治氏(童絵作家・高松短期大学客員教授)

参加者 113名

- ・歴史民俗講座「埼玉の伝説」

期 日 7月20日(土)

講 師 大明 敦(当館学芸主幹)

参加者 130名

- ・展示解説

期 日 7月27日(土)、8月31日(土)

参加者 計26名

- ・アニメ上映会『まんが日本昔ばなし』より

期 日 7月21日(日)、8月10日(土)、8月17日(土)、9月1日(日)

参加者 計233名

- ・ミニアート「だいだらぼっち」

期 日 7月25日(木)、8月29日(木)

参加者 計49名

- ・ワークシート

期 日 会期中毎日実施

参加者 計678名

(3) 特別展「狩野派と橋本雅邦—そして近代日本画へ」

期 日 平成25年10月12日(土)～11月24日(日)

趣 旨 埼玉県内に知行地(領地)を与えられていた江戸幕府の絵師木挽町狩野家と、その弟子であり、近代日本画を主導した橋本雅邦を紹介する展示を開催した。

展示資料総数 120点

開館日数 40日

会期中観覧者 7,802名

[関連事業]

- ・記念講演会Ⅰ「木挽町狩野家をめぐって」

期 日 10月27日(日)

講 師 榊原 悟氏(群馬県立女子大学教授、岡崎市美術博物館館長)

参加者 85名

- ・記念講演会Ⅱ「橋本雅邦の脱狩野派—日本画の誕生」

期 日 11月9日(土)

講 師 古田 亮氏(東京藝術大学大学美術館准教授)

参加者 130名

- ・歴史民俗講座「狩野派と橋本雅邦」

期 日 10月19日(土)

講 師 浦木 賢治(当館学芸員)

参加者 115名

- ・展示解説

期 日 10月13日(日)、11月2日(土)、14日(木)、17日(日)、
23日(土)、24日(日)

全6回実施

参加者 6回計285名

(4) 企画展「圏央道の遺跡～埼玉の発掘調査 西から東から～」

期 日 平成26年1月2日(木)～2月16日(日)

趣 旨 埼玉を東西に横断する圏央道(首都圏中央連絡自動車道)建設に伴って発掘調査された代表的な遺跡の出土品を一堂に展示し、考古学的な研究成果を踏まえて、新たに明らかとなった埼玉県の歴史を紹介した。

展示資料総数 397点

開館日数 41日

会期中観覧者 3,682名

[関連事業]

- ・記念講演会「発掘された弥生のムラ—九州・近畿・関東—」

期 日 2月11日(火)

講 師 禰亘田 佳男氏（文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門主任文化財調査官）

参加者 157名

・担当者が語る遺跡調査成果報告会

第1回

期 日 2月1日（土）

演題及び講師 「狭山市西久保遺跡」（旧石器時代）

西井 幸雄氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団主査）

「桶川市諏訪野遺跡」（縄文時代）

渡辺 清志氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団主査）

参加者 101名

第2回

期 日 2月8日（土）

演題及び講師 「川島町富田後遺跡」（古墳時代）

福田 聖氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団主査）

「川越市宮廻館跡」（鎌倉・室町時代）

木戸 春夫氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団主幹）

参加者 27名

・歴史民俗講座「圏央道の遺跡発掘調査でわかったこと」

期 日 1月18日（土）

講 師 中山 浩彦（当館主任学芸員）

参加者 86名

・展示解説

期 日 1月4日（土）、25日（土）、2月15日（土）

参加者 計54名

(5) 特別展「渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館－Attic Museum－」

期 日 平成26年3月21日（金）～3月31日（月）【平成25年度分】

趣 旨 渋沢栄一の後継者である渋沢敬三の民俗学者・学術研究の支援者としての側面を、敬三が自邸に開設したアチックミュージアム（屋根裏部屋の博物館）の収集資料を中心に紹介した。

展示資料総数 373点

開館日数 9日

会期中観覧者 1,037名

・民俗芸能公演「渋沢家ゆかりの血洗島獅子舞」

期 日 3月21日（金）

出 演 血洗島獅子舞保存会（深谷市）

参加者 152名

・展示解説

期 日 3月22日（土）、29日（土）

参加者 計52名

5 学習支援事業

来館者とのコミュニケーションを大切にしながら、その時々にはふさわしい豊かで多様なプログラムを実施した。また、博物館活動を広く県民に知らせることにより利用の促進を図る活動、関係諸団体との連携を図る活動を行った。

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座

- ・「木器からわかること」
期 日 4月13日(土)
講 師 西口 正純(当館学芸主幹)
参加者 73名
- ・「埼玉の伝説」
期 日 7月20日(土)
講 師 大明 敦(当館学芸主幹)
参加者 130名
- ・「板碑の造立と武蔵武士」
期 日 9月21日(土)
講 師 諸岡 勝(当館主任専門員兼学芸員)
参加者 152名
- ・「狩野派と橋本雅邦」
期 日 10月19日(土)
講 師 浦木 賢治(当館学芸員)
参加者 115名
- ・「美術に表された武士の姿と物語」
期 日 12月14日(土)
講 師 池田 伸子(当館主任学芸員)
参加者 80名
- ・「圏央道の遺跡発掘調査でわかったこと」
期 日 1月18日(土)
講 師 中山 浩彦(当館主任学芸員)
参加者 86名

② 博物館教育利用セミナー

期 日 8月8日(木) 参加者 6名

③ 特別体験事業

- ・「十二単の着装」
期 日 4月13日(土) 参加者 14名
期 日 5月18日(土) 参加者 14名
期 日 1月18日(土) 参加者 14名
期 日 3月8日(土) 参加者 13名
- ・「十二単・直衣の着装」
期 日 10月19日(土) 参加者 13名
期 日 11月16日(土) 参加者 14名
- ・「鎧の着装」

- | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-----|
| 期 日 | 2月22日(土) | 参加者 | 13名 |
| ・「火起こし体験教室」 | | | |
| 期 日 | 12月7日(土) | 参加者 | 16名 |
| 期 日 | 2月15日(土) | (大雪のため中止) | |
| 期 日 | 3月15日(土) | 参加者 | 19名 |
| ・「お雛子体験教室」 | | | |
| 期 日 | 7月28日(日) | 参加者 | 54名 |
| 期 日 | 11月10日(日) | 参加者 | 25名 |

④ 博物館裏方探検隊

原則、毎週土曜日に博物館の裏方を紹介した。(延べ58回 参加者446名)

(2) 実習・研修等の受入

① 博物館学芸員実習

7月2日(火)～9月1日(日)のうち7日間

埼玉大学など31大学から45名

② 博物館見学実習

神奈川大学など6大学89名

③ 中学生職場体験

さいたま市立大宮北中学校など11校48名 延べ31日間

④ 高校生インターンシップ

県立大宮商業高校 1校5名 5日間

⑤ 教員向け研修の受け入れ

・埼玉県教員養成セミナー

期 日	4月7日(日)	参加者	92名
-----	---------	-----	-----

・社会教育主事講習

期 日	8月9日(金)	参加者	10名
-----	---------	-----	-----

・小・中学校地域学習講習会

期 日	8月9日(金)	参加者	36名
-----	---------	-----	-----

・中学・高等学校5年経験者研修

期 日	8月23日(金)	参加者	33名
-----	----------	-----	-----

⑥ 学校団体

小学校50、中学校9校、高校8校、特別支援学校5校 計72校

(3) デリバリー事業等

① 県政出前講座

入間市立東町公民館など	23件	参加者	1,239名
-------------	-----	-----	--------

② 市町村等連携

久喜市文化財・歴史講座	1件	参加者	40名
-------------	----	-----	-----

③ 学校連携(出前授業)

三郷市立彦郷小学校など	19件	参加者	1,365名
-------------	-----	-----	--------

④ 埼玉サイクリングフェスティバル2013(出張展示)

熊谷市	1件	参加者	727名
-----	----	-----	------

(4) ボランティアの受け入れ

① ボランティア活動、養成講座

ア ボランティア活動

- ・体験学習ボランティア 61名登録

まが玉づくり・絞り藍染めハンカチ・組紐ストラップ・着装体験及び学校団体などの体験学習指導補助、スキルアップ研修等

延べ活動日数 311日 延べ活動人数 1,709名

- ・展示解説ボランティア 53名登録

常設展の展示解説を開館期間中毎日実施したほか、「古代から教室へのメッセージ」学習キット（土器貸出キット）を活用し、展示室入り口で土器・石器類ハンズ・オン解説も実施した。

延べ活動日数 308日 延べ活動人数 1,267名

イ ボランティア研修

博物館ボランティア応募者を対象とした、ボランティア養成のための専門的講座、及び実践的な実習を実施した。

6 ゆめ・体験ひろばの運営

それぞれ特色のある機能と設備を持つ3つのエリアで、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを、子どもから高齢者、初心者からリピーターまでさまざまな参加者を対象に実施した。

(1) 「ものづくり工房」通年メニュー

① 藍染めハンカチ	2,345名	
② 江戸組紐ストラップ	1,358名	
③ 絵馬	201名	
④ 歴史百景	100名	
⑤ 絵巻物	456名	
⑥ まが玉	2,413名	
⑦ 浮世絵スリスリマシン	503名	
⑧ 季節のミニアート	898名	合計 8,274名

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

① 藍の絞り染め風呂敷作り		
期日	5月23日(木)	参加者 20名
② 藍の絞り染めストール作り		
期日	7月5日(金)、6日(土)	参加者 40名
③ 江戸組紐ネックレス作り		
期日	10月18日(金)	参加者 20名
④ ミニ銅鏡作り		
期日	1月25日(土)	参加者 18名
⑤ 江戸組紐帯締め作り		
期日	2月14日(金)、21日(金)	参加者 20名
⑥ 型付け藍染め手拭い作り		
期日	3月9日(日)	参加者 10名

(3) 「昭和の原っぱ」ノスタルジックイベント

- ① 「博物館子どもまつり」

- 射的あそび
期 日 5月 3日 (金) 参加者 197名
- ② コマ教室とコマ対戦見学 (キッズクルー対象事業)
期 日 6月 1日 (土) 参加者 67名
- ③ 「博物館春祭り」
期 日 3月21日 (金)
ポン菓子作り 参加者 106名
けん玉教室とけん玉大会 参加者 36名
- (4) レファレンスサービス (268件)
博物館の利用に関する相談、埼玉の歴史・考古・民俗・美術に関する学習相談、情報提供、常設展示の内容等照会、体験学習の指導・助言、各種映像機器の操作等へのアドバイスの実施。

7 その他の主催事業

- (1) 弥生時代復元住居見学会
期 日 5月3日 (金)、11月14日 (木)
参加者 計261名
- (2) 映画鑑賞会
期 日 7月27日 (土)
参加者 69名
- (3) 正月臨時開館関連事業
- ① 「昭和のお正月」絵馬作り
期 日 1月2日 (木)～5日 (日)
参加者 183名
- ② 「昭和のお正月」投扇興
期 日 1月2日 (木)
参加者 44名
- ③ 「昭和のお正月」福笑い
期 日 1月3日 (金)
参加者 14名
- ④ 「昭和のお正月」かるた大会
期 日 1月4日 (土)
参加者 72名
- ⑤ 「昭和のお正月」貝合わせ
期 日 1月5日 (日)
参加者 18名
- ⑥ 正月イベント「クイズラリー」 (常設展)
期 日 1月2日 (木)～5日 (日)
参加者 222名
- (4) けん玉大会
期 日 8月11日 (日)
参加者 27名
- (5) 民俗工芸実演 (現地見学会)

- ① 製材加工
期 日 5月17日(金)
参加者 10名
- ② 桐箱作り
期 日 10月4日(金)
参加者 13名

8 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会(会長)・運営等(事務局)
総会・研究会・講演会・見学会・県外研修会・役員会等の開催
加盟館園マップ「埼玉ものしり博物館ガイド」発行(10,000部)
- (2) 関東地区博物館協会(監事)
会計監査及び総会・理事会・研究会等への参加
- (3) 日本博物館協会(参与)
全国博物館大会等への参加
- (4) 「博物館友の会」との連携・共催事業の実施

① 講演会

- ・「年輪年代学が古代史を変える」
期 日 4月28日(日)
講 師 光谷 拓実 氏(奈良文化財研究所年代学研究室長)
参加者 150名
- ・「仁徳天皇陵と百舌鳥古墳群の謎」
期 日 5月26日(日)
講 師 矢澤 高太郎 氏(元読売新聞文化部記者)
参加者 181名
- ・「岩佐又兵衛・浮世絵始祖説の再検討」
期 日 11月2日(土)
講 師 安村 敏信 氏(前板橋区立美術館長)
参加者 66名
- ・「平将門の乱とその後」
期 日 11月7日(木)
講 師 染谷 洌 氏(歴史研究家・文芸評論家)
参加者 123名
- ・「知らなかった『富士講』の謎と埼玉」
期 日 12月1日(日)
講 師 中島 信彰 氏(富士信仰研究会)
参加者 95名
- ・「シルクロードの遺跡」
期 日 2月2日(日)
講 師 井上 尚明 氏(自然の博物館長)
参加者 101名
- ・「古気候学からみた最近の気象変動」

期 日 3月9日(日)
講 師 多田 隆治 氏(東京大学大学院教授)
参加者 98名

② プレミアム講座

・「川村碩布・戸賀崎知道軒」

期 日 7月25日(木)
講 師 加藤 光男(当館学芸主幹)、諸岡 勝(当館主任専門員兼学芸員)
参加者 45名

・「絵で語る埼玉の民話」

期 日 8月29日(木)
講 師 大明 敦(当館学芸主幹)
参加者 40名

・「円空仏」

期 日 10月3日(木)
講 師 池田 伸子(当館主任学芸員)
参加者 72名

・「狩野派と橋本雅邦」

期 日 10月30日(水)
講 師 浦木 賢治(当館学芸員)
参加者 41名

・「埼玉の人物『鹿児島寿蔵・下総皖一』」

期 日 12月12日(木)
講 師 加藤 光男(当館学芸主幹)、諸岡 勝(当館主任専門員兼学芸員)
参加者 30名

・「企画展『圏央道の遺跡』について」

期 日 1月23日(木)
講 師 中山 浩彦(当館主任学芸員)
参加者 40名

・「美術館では聞けない美術館のおハナシ」

期 日 2月13日(木)
講 師 大浦 周(近代美術館学芸員)
参加者 50名

(5) ミュージアムヴィレッジ大宮公園魅力アップ地域活動事業の実施

平成23年度に近隣9施設で活動を開始したミュージアムヴィレッジ大宮公園による連携事業として、「平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受け、下記の事業を実施した。

- ・ガイドブックの作成および配布
- ・スタンプラリー
- ・ポスターの作成・配布及び駅貼り
- ・FMスポットCMの制作及び放送
- ・ウォーキングツアー

(6) その他事業の共催

- ・共催団体
埼玉県文化財保護協会

9 県立博物館施設再編整備計画の推進

- (1) 総合調整推進会議の開催、博物館評価、学芸員研修体系、IT広報ワーキンググループ会議の運営
- (2) ミュージアムフォーラム2014（県立博物館合同学芸員研究発表会）「旅」開催（参加者73名）

10 広聴広報

- (1) 広聴
 - ① 特別展・企画展等のアンケートの実施
 - ② 博物館利用者アンケートの実施
- (2) 広報
 - ① 当館刊行物、県刊行物による広報のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等による広報を積極的に行うとともに、インターネットによる情報発信を行った。
 - ② 「大盆栽まつり」（5月3日（金）～5日（日））、「県庁オープンデー」（11月14日（木））に出展し、広報を行った。

11 各種印刷物の刊行

- | | |
|-----------------------------|---------|
| (1) 『紀要』第8号 | 700部 |
| (2) 調査報告書「埼玉の夏祭り調査概報Ⅱ」 | 600部 |
| (3) 展示図録等 | |
| 特別展「狩野派と橋本雅邦」 | 2,500部 |
| 企画展「絵で語る埼玉の民話」ブックレット | 1,200部 |
| (4) 平成26年度イベントガイド | 50,000部 |
| (5) 平成25年度博物館要覧 | 550部 |
| (6) 歴史と民俗の博物館だより（第22号～24号） | 各2,500部 |
| (7) 学校と博物館の連携・利用案内（平成26年度版） | 8,000部 |

平成 25 年 度 入 館 者 数

月	有 料 観 覧 者 (展 示 室)										無 料 観 覧 者 (展 示 室)										入 場 者 数 C- (A+B)	総 合 計	参 考		閉 館 日 数															
	個人		団体一般		団体学生		年間観覧券		友の会		小計		観覧料		小学校		中学校		高・大学				その他(団体)			小学生		高齢者		障害者		招待券		招待券		小計		人数		
	一般	学生	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	円	件	人	件	人	件	人	件			人	件		人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人
4	642	37	2	26	0	0	6	0	46	0	757	338,350	1	154	0	0	1	60	1	95	261	899	107	131	0	48	39	1,794	5	2,551	6,600	9,151	463	1,665	26					
5	925	70	6	40	0	1	4	0	17	0	1,057	398,700	8	564	0	0	0	0	0	274	1,052	84	109	0	1	56	2,140	14	3,197	8,117	11,314	893	2,252	28						
6	498	55	3	41	1	25	12	0	12	0	643	169,850	3	239	1	25	0	0	132	162	601	67	3	0	0	77	1,306	12	1,949	5,909	7,858	284	1,246	20						
7	928	59	3	58	2	40	14	1	313	0	1,413	383,950	1	4	0	0	2	19	2	178	479	0	81	27	0	66	922	10	2,335	6,279	8,614	316	1,628	27						
8	1,832	95	5	59	0	0	7	0	52	0	2,045	702,850	0	0	0	0	0	0	5	336	1,374	0	159	286	0	6	102	2,263	10	4,308	7,916	12,224	487	2,996	27					
9	1,482	57	7	198	0	0	19	0	55	0	1,811	506,150	0	0	0	0	1	15	1	9	266	0	154	85	0	3	19	551	9	2,362	6,525	8,887	300	1,804	27					
10	1,955	55	3	105	0	0	18	0	307	0	2,440	1,022,100	12	1,301	0	0	2	63	0	0	187	0	207	193	0	11	38	2,000	17	4,440	6,840	11,280	1,311	2,725	28					
11	2,633	64	6	259	0	0	12	0	163	0	3,131	1,417,000	12	692	1	14	2	20	2	57	317	0	267	632	0	103	381	2,483	23	5,614	10,124	15,738	1,159	3,202	27					
12	578	52	3	67	0	0	14	0	157	0	868	211,100	2	94	0	0	3	27	1	31	153	0	86	1	0	1	16	409	9	1,277	5,518	6,795	106	1,309	24					
1	1,299	48	2	51	0	0	17	1	251	2	1,669	537,150	8	421	0	0	0	0	0	275	0	125	228	0	3	50	1,102	10	2,771	8,690	11,461	628	2,617	27						
2	817	39	2	29	0	0	13	0	96	0	994	308,050	4	332	0	0	0	0	0	186	0	60	236	0	5	16	835	6	1,829	4,822	6,651	472	1,096	24						
3	1,105	51	5	255	0	1	15	0	178	0	1,605	569,300	0	0	0	0	0	0	2	153	281	0	110	64	0	8	43	659	7	2,264	7,716	9,980	603	2,078	26					
合計	14,694	682	47	1,188	3	67	151	2	1,647	2	18,433	6,564,350	51	3,801	2	39	11	204	18	991	4,215	2,552	1,507	1,995	0	255	905	16,464	132	34,897	85,056	119,953	7,022	24,618	311					

展示概要等

■屋外展示

館庭は縄文時代と弥生時代の遺跡で、一部が県指定史跡となっている。発掘調査の成果をもとに弥生時代の竪穴住居を復元しており、その背後にある方形周溝墓は弥生時代後期の有力者の墓である。

■常設展示—埼玉における人々のくらしと文化—

常設展示のメインテーマは「埼玉における人々のくらしと文化」である。歴史を常に庶民の立場から見ていくという思想で貫き、庶民の力強さをダイナミックに表現することを基本姿勢としている。また、「見せる博物館」から「見る博物館」へ、「教える博物館」から「自ら学ぶ博物館」へをキャッチフレーズに、資料や研究データを通して観覧者と博物館が共に考えていこうという展示構成となっている。

プロローグ 大地に読む歴史

エントランスロビーの天井に届くようにそびえるのは、さいたま市大宮区の寿能泥炭層遺跡で確認された土層の模式断面である。各時代の遺物が出土状況に合わせてはめこまれ、各層の年代と各展示室で展開される展示内容とが対比できる歴史年表となっている。各展示室の入口には、この土層の断面をデザイン化した色別のパネルがあり、観覧の時間軸として利用できるようになっている。

第1展示室 旧石器～弥生時代

常設展示のはじまりは、埼玉の地にいつから人類が住み始めたかを考えるコーナーである。武蔵野台地や大宮台地を中心とした遺跡や出土遺物から旧石器文化を紹介する。内陸深く入りこんだ“奥東京湾”の周辺から出土した土器・漆器・木製品などから縄文人のくらしを表現している。大陸から伝えられた稲作や新たな技術はやがて東国にも達する。コメづくりのムラが営まれ、ムラとムラをたばねる首長が成長していく弥生時代を、東日本の出土遺物の比較や方形周溝墓などから表現している。

第2展示室 古墳時代

古墳時代における畿内文化の伝播や大和政権を中心とする国づくりの様子、豪族・農民の生活を紹介する。埼玉（さきたま）古墳群の稲荷山古墳から出土した辛亥（しんがい）銘鉄剣（国宝）に刻まれた文字は、国づくりの過程で北武蔵地方の豪族が大王を補佐する役割を果たしたことを物語っている。当時の武器・武具・馬具や埴輪などを通して、大和政権による国づくりに果たした東国の“杖刀人（じょうとうじん）”＝武人の役割に焦点をあてた。また、鉄製の農具や工具など新技術を摂取して開発を進めていった人々の生活を取り上げている。

第3展示室 奈良～南北朝時代

「武蔵武士」を基本テーマとする。ここではまず、発掘資料を用いて、律令制下における支配や人々の暮らしに関する展示を行う。平安時代に地方支配が動揺すると、各地で武装した領主層が台頭し始める。こうしたなか、県域では武蔵武士が登場する。その台頭過程や活躍ぶり、信仰や日常生活の様子などについて、工芸品・絵巻物・古文書・発掘資料などを使って紹介する。

第4展示室 美術展示室

埼玉県の歴史の流れ（通史）の中では紹介しきれない優れた美術工芸品を、「博物館の中の小さな美術館」である本室で集中的に紹介する。様々な作品を通して美の世界の広がり提示する。

第5展示室 室町～戦国時代

室町・戦国時代の北武蔵では、室町幕府と鎌倉府、戦国大名などの間で戦乱が繰り返された。ここでは、こうした「乱世」を生きた人々の姿をクローズアップする。歴史を彩る武将を輩出した古河公方足利氏・太田氏・後北条氏という3家について、工芸品・古文書などを用いて紹介するとと

もに、この時代の戦争を特徴づけた「足軽」と呼ばれる雑兵についても展示を行う。あわせて、中世における人々のくらしと文化を取り上げる特集コーナーを設け、展示内容の充実を図っている。

第6展示室（展示ホール） 板碑

鎌倉から戦国時代末期にかけて盛んにつくられた板碑には、長い戦乱の中で暮らした人々の多くの願いが込められている。荒川上流で産出する緑泥片岩を用いた武蔵の板碑は質量ともに全国一を誇り、武蔵武士の名が刻まれているものも少なくない。ここでは、それらの中から我が国最大・最小のもの、最古のものをはじめ、県内の代表的な板碑を紹介している。また、ときがわ町の慈光寺の開山塔は、室町時代初期の建築様式を伝える我が国現存最古の木造宝塔といわれており、その復原資料を展示している。

第7展示室 江戸時代Ⅰ

江戸幕府のお膝元となった埼玉における支配の特色を、大名・旗本などの領主とその農民支配の在り方、交通・宗教・文化などの制度を通して紹介する。領主については、川越・忍（行田）・岩槻・岡部に配置された大名と旗本に関する資料や城の模型を中心に展示している。農民の支配については、年貢制度や、日常生活の規制などを高札や古文書により表現している。また、中山道や日光道中、利根川に設けられた関所の様子、幕府の寺院統制やキリシタン禁制、学芸、科学、民間信仰などを取り上げている。

第8展示室 江戸時代Ⅱ

江戸時代の埼玉は、河川改修や用水路等の整備などにより、耕作地が増えて米の収穫量は増大した。そして、河川交通の発達とともに、各地で地場産業が盛んとなり、商品作物も作られるようになった。こうした様子は見沼代用水構造物や高瀬船模型・藍玉・紅餅・茶甕・運賃定書などを通して紹介している。また、幕藩体制が大きくゆらぎはじめる幕末の様子は、武州一揆や安政の大地震と水害・黒船来航などの資料によって紹介している。

第9展示室 明治時代～現代

明治期の埼玉は、政府の富国強兵の方針のもとでの殖産興業政策により、地場産業の近代化と産業基盤の整備を推進した。大正・昭和戦前期になると、大衆運動が盛り上がりを見せたが、昭和恐慌を契機にやがて長い戦争へと突入していき、県民・県土は疲弊した。敗戦後の埼玉は、産業・経済の復興をなすとげ、内陸型の工業県として目覚ましく発展した。ここでは、近代埼玉の歩みを行行政・産業・経済を中心に紹介するとともに、昭和30年代の暮らし、地場産業や郷土の発展に貢献した埼玉の人物をより詳細に取り上げている。

第10展示室 民俗展示室

民俗展示室は「日々を生きる～衣・食・住～」というテーマで埼玉の民俗を紹介している。展示は「着る」「食べる」「住む」の3部構成になっており、当館が所蔵している衣類や雨具、調理器具や食器、家具調度品などの資料、合わせて「農家のいろり」を再現して展示している。平成27年1月からは、新たに「農業と暮らし」（仮称）をテーマにして、埼玉県内の稲作や畑作を中心とした農具、農業を営んできた人々の暮らしの様子を展示する。農具が機械化する高度経済成長期以前の庶民の暮らしを紹介する予定である。

■特別展示室

企画テーマに沿った特別展などを開催する展示室である。年数回の特別展・企画展を開催し、毎回好評を博している。企画の内容は、より広い視点から埼玉の歴史と文化を比較・理解できるよう、県内だけではなく、関東あるいは全国を対象を広げてテーマを設定している。

■季節展示室

この展示室は、常設展示室と特別展示室を結ぶ場所に位置している。京壁と野外の竹林・石灯籠

とが調和して安らぎの場となっている。また、小さな特集展示や特別展のサブ展示室としても活用される。

■ゆめ・体験ひろば

「ゆめ・体験ひろば」は、世代間交流ができる体験学習施設で、それぞれに特色ある機能と設備を持つ3つのエリアで構成されており、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様なプログラムを提供している。

第1エリア 自由自在座

入館者が多様なハンズオン展示装置を自由に選択し、自在に楽しむ体験展示として、浮世絵版画面の工程を体験する「浮世絵スリスリマシン」、歌舞伎などで用いられる擬音楽器を使って楽しむ「日本の音で遊ぼう」、江戸時代の提灯や行灯をのぞき窓から覗く「灯りの今昔」、ヒモを引いて目や口を動かし複雑な仕掛けを理解する「人形芝居」、石臼で米などを挽いて粉にする体験ができる「石臼を使ってみよう」などが設置されている。

また、「昔のくらしと道具」のブースは、昭和30年代の農村の住居・町の住居の食卓や道具などの展示を見ながら、昔の生活道具を学べるコーナーとなっている。

さらに、「学び文庫」として調べ学習のための参考図書をゆったり閲覧することができる。

第2エリア ものづくり工房

「ものづくり工房」では、郷土に伝わる伝統文化のわざとこころを、体験を通して学ぶことができ、藍染めや江戸組紐といった伝統工芸や地場産業をテーマとしたものづくりメニューを、常時数種目体験することができる。通常体験メニューとは別に、藍染めストールや江戸組紐帯締めなど、成人対象の本格的な特別体験メニューも提供できるようになっている。

第3エリア 昭和の原っぱ

屋外広場に、木製電柱や土管、ホーロー看板やスバル360などのディスプレイにより、昭和30～40年代のロケーションを再現したエリアが「昭和の原っぱ」である。

ここでは、ベーゴマやメンコ、フラフープといった昔懐かしい遊び体験コーナーや駄菓子屋を常設するとともに、季節に応じて、「射的遊び」や「ポン菓子作り実演」などのノスタルジックイベントも開催する。

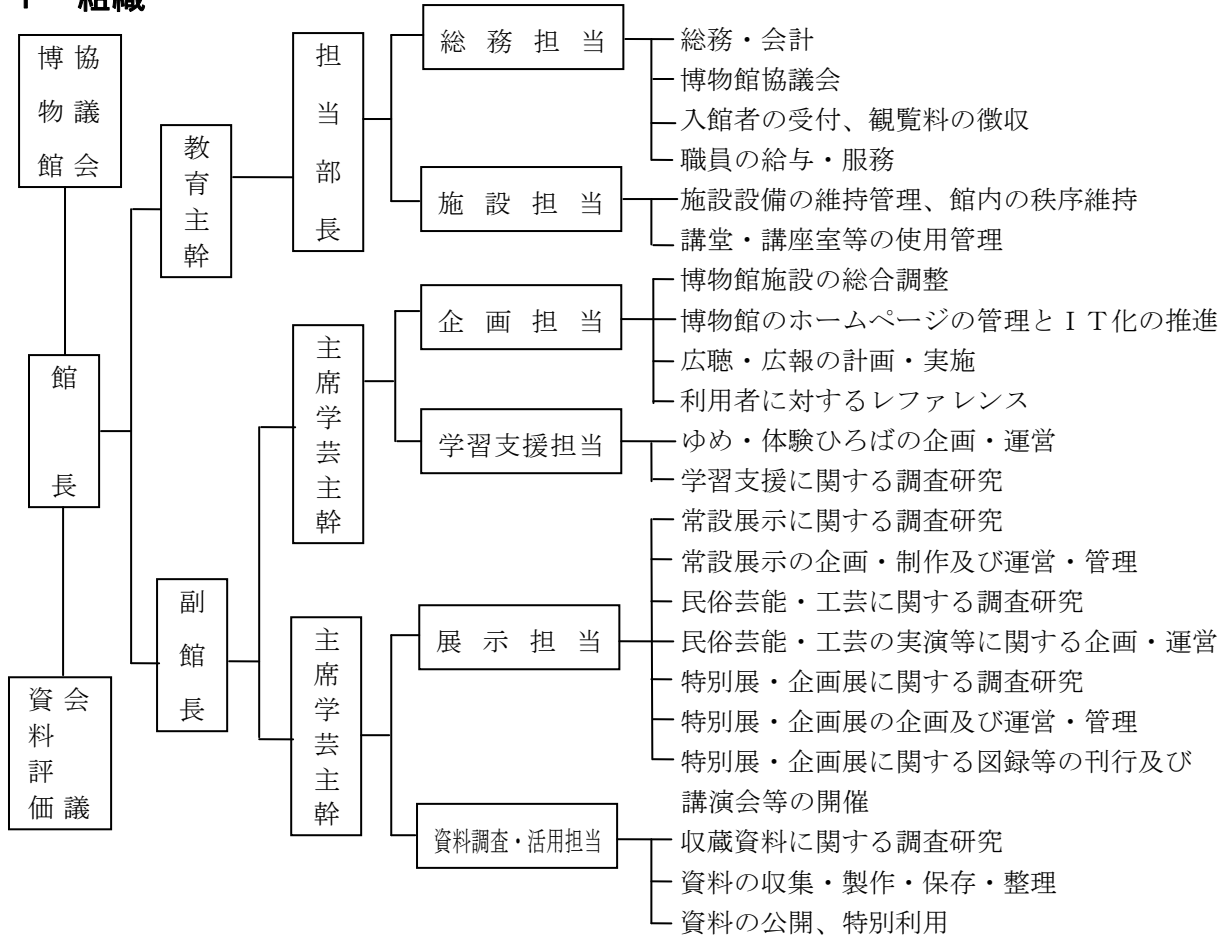
人それぞれに懐かしくもあり、新鮮でもある「昭和の原っぱ」は、かつてガキ大将で鳴らした団塊の世代の大人たちと、IT世代の現代っ子たちが、遊び文化の継承を通じて世代間交流ができる空間を提供している。

このように、特色ある3つのエリアから成る「ゆめ・体験ひろば」では、入館者はもとより、専門分野を担う博物館クルーや体験ボランティアなどが運営のサポートにあたることにより、「だれもが主役になれる博物館」づくりを進めている。

また、各施設は、ユニバーサルデザインに基づき、「誰にもやさしい博物館」として、安全に楽しく見学や体験ができるようになっている。

組織及び職員構成

1 組織



2 職員名簿（平成26年4月1日現在）

職名	氏名
館長	牧 恒 男
◎総務、施設担当	
教育主幹	藤 野 龍 宏
担当部長	堀 米 俊 孝
[総務担当]	
担当課長	山 本 純 二
主任	渡 辺 良 一
主事	井 原 伸
主事	財 津 花 奈 子
[施設担当]	
担当課長	増 茂 直 人
主任専門員	宮 沢 修 平
主事	吉 野 修 平
◎企画、学習支援、展示、資料調査・活用担当	
副館長	杉 山 正 司
◎企画、学習支援担当	
主席学芸主幹	川 上 由 美 子
[企画担当]	
主任学芸員	内 田 幸 彦
学芸員	浦 木 賢 治
主事	小 林 剛

職名	氏名
[学習支援担当]	
学芸主幹	伴 瀬 宗 一
主任学芸員	服 部 悠 一
担当課長	平 井 悠 一
主任	前 島 俊 介
学芸員	東 可 南 子
専門員(兼)学芸員	市 川 修 修
専門員(兼)学芸員	大 久 根 茂
○展示、資料調査・活用担当	
主席学芸主幹	田 中 裕 子
[展示担当]	
学芸主幹	栗 島 義 明
学芸主幹	加 藤 光 男
学芸主幹	西 口 由 子
主任学芸員	中 山 浩 彦
主任学芸員	池 田 伸 子
専門員(兼)学芸員	山 田 実 弥
学芸員	佐 藤 美 啓
学芸員	野 北 啓 介
学芸員	奥 村 由 美
専門員(兼)学芸員	井 上 尚 明
[資料調査・活用担当]	
主任学芸員	野 中 仁 昌
専門員(兼)学芸員	岩 本 克 昌
学芸員	佐 藤 香 里
専門員(兼)学芸員	針 谷 浩 一

3 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員名簿

任期 平成26年5月8日から平成28年5月7日まで
(選出区分別 敬称略 職名等は平成26年4月1日現在)

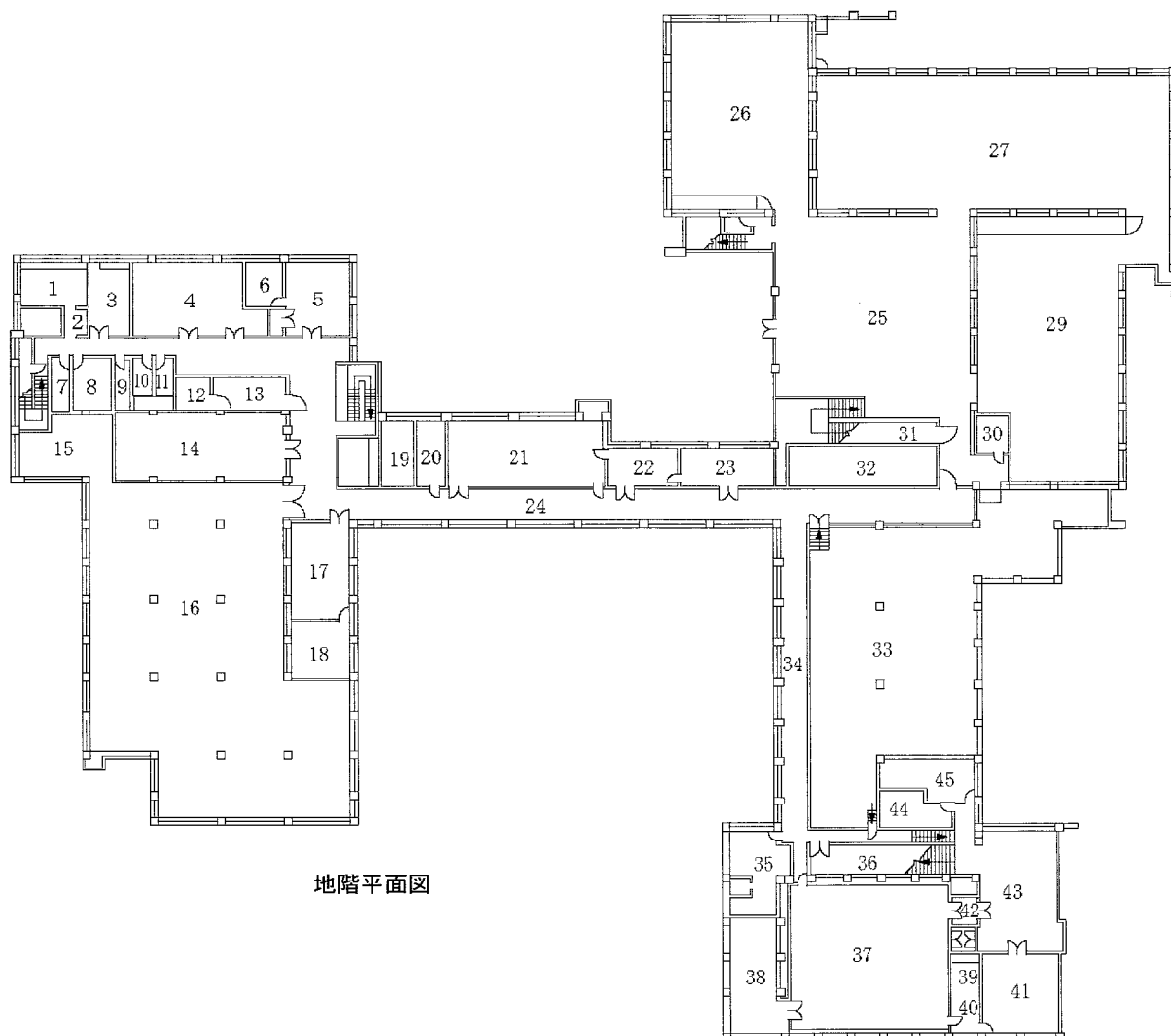
選出 区分	ふりがな 氏名	職名等
学校教育 関係者	せきぐち みえこ 関口 美重子	久喜市立江面第二小学校長
	ふじむら えいいちろう 藤村 英一郎	県立熊谷特別支援学校長
	ますこ あつゆき 益子 篤行	県立杉戸高等学校長
社会教育 関係者	あおき しげお 青木 繁夫	東京文化財研究所名誉研究員 サイバー大学世界遺産学部教授
	うえだ ふみこ 植田 富美子	埼玉県地域婦人会連合会副会長
家庭教育 関係者	いさわき かずみ 岩崎 一女	埼玉県家庭教育振興協議会副会長
	たなか まさみ 田中 雅美	さいたま市立日進小学校 学校地域連携コーディネーター
学識 経験者	あさい きょうこ 浅井 京子	早稲田大学會津八一記念博物館特任教授 埼玉県文化財保護審議会委員
	いちのせ としや 一ノ瀬 俊也	埼玉大学教養学部 准教授
	かまくら さほ 鎌倉 佐保	首都大学東京都市教養学部 准教授
	さとう たつや 佐藤 達哉	(株)埼玉新聞社 編集局文化くらし部部长
	すずき はるこ 鈴木 暖子	会社員
	すだ つとむ 須田 勉	国土館大学文学部 教授 埼玉県文化財保護審議会会長
	たかはら えみこ 高原 恵美子	さいたま市北区植竹町2丁目自治会長
	はにゅう ふゆか 羽生 冬佳	立教大学観光学部 准教授
	みずさわ じゅんいち 水澤 順一	元会社役員

※ 選出分野ごとに五十音順

施設設備

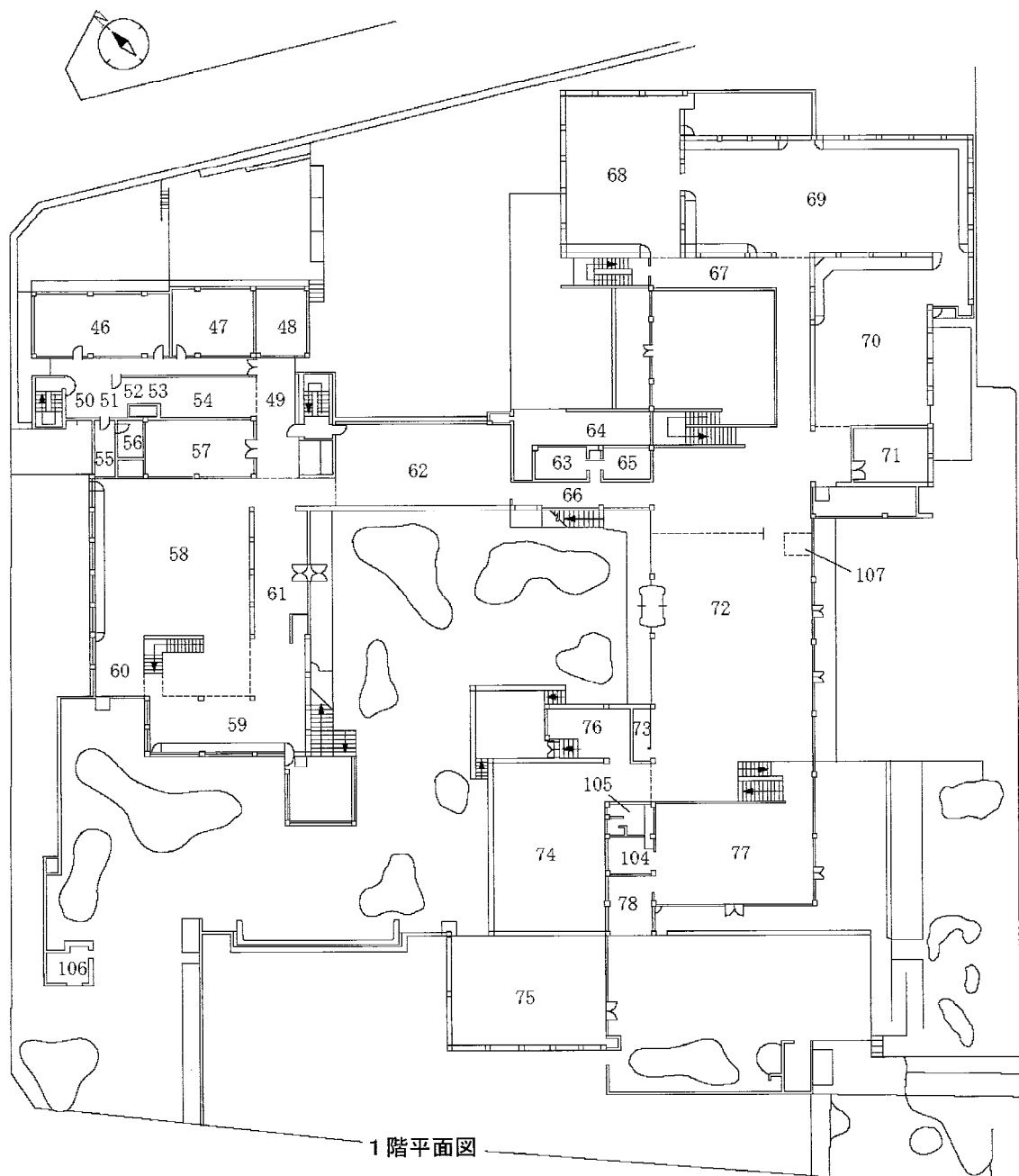
敷地面積 12,753.71㎡ 延床面積 11,363.93㎡

各室配置図及び各室面積表

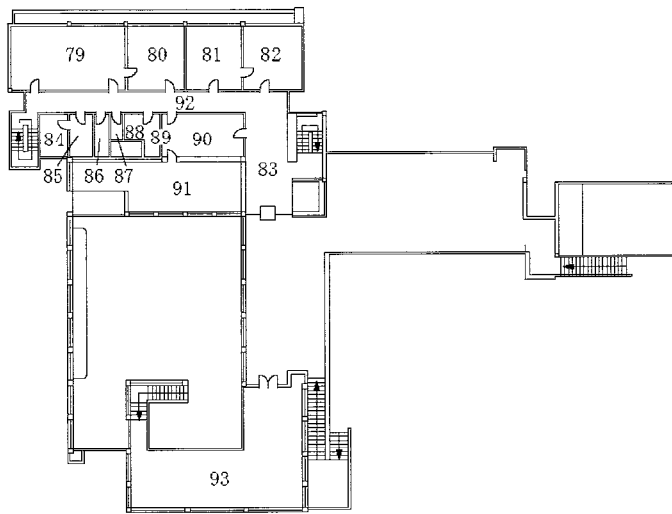


地階平面図

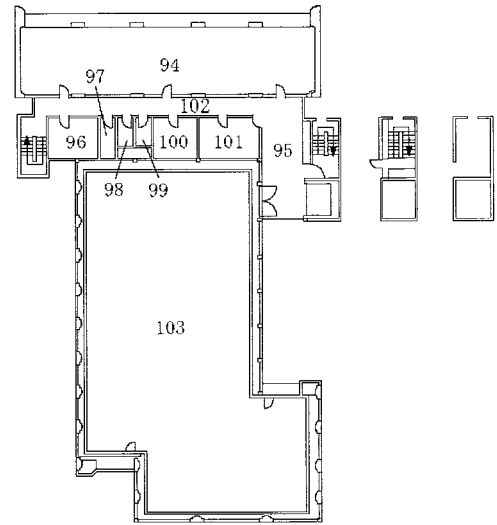
番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
1	休養室	35.84	16	収蔵庫 2	604.80	32	倉庫 1	47.52
2	湯沸室	7.50	17	図書室 2	52.80	33	空調機械室 1	431.44
3	ボランティアルーム	30.24	18	炭酸ガスポンベ室	33.60	34	廊下	94.32
4	資料保存室	79.20	19	消火水槽	21.60	35	旧食堂事務室	43.92
5	スタジオ	40.32	20	消火ポンプ室	14.40	36	旧食堂倉庫	58.32
6	暗室	17.28	21	変電室	86.40	37	講堂	227.52
7	浴室	9.00	22	中央監視室	23.76	38	講堂準備室	51.84
8	控室	11.70	23	発電機室	32.40	39	音響調整室	10.56
9	男子便所	9.00	24	廊下	373.72	40	湯沸室	18.48
10	女子便所	6.12	25	常設展示室 6	367.74	41	講座室	60.48
11	掃除用具室	6.12	26	常設展示室 7	237.60	42	講堂前室	13.20
12	殺虫消毒室 1	10.26	27	常設展示室 8、9	450.72	43	講堂前ロビー	94.56
13	殺虫消毒室 2	28.50	29	常設展示室 10	320.64	44	男子便所	20.12
14	空調機械室 2	94.80	30	常設展示準備室 2	6.00	45	女子便所	28.60
15	収蔵庫 3	46.50	31	常設展示準備室 3	16.50			



番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
46	管理事務室	108.00	59	特別展示室1	237.60	71	常設展示準備室1	54.06
47	車庫	64.60	60	休憩室	43.20	72	エントランスロビー	712.80
48	荷扱室	43.20	61	特別展示室エントランスロビー	116.64	73	コインロッカー室	14.40
49	荷解広間	63.36	62	季節展示室	195.84	74	自由自在座	207.36
50	管理棟エントランスロビー	26.88	63	客用男子便所	14.40	75	ものづくり工房	237.60
51	男子便所	9.00	64	みんなのトイレ	7.02	76	ゆめ・体験ひろば準備室	54.48
52	女子便所	6.12	65	客用女子便所	17.18	77	休憩コーナー	207.60
53	湯沸室	3.42	66	廊下	52.48	78	幼児コーナー	37.08
54	荷解梱包室	53.55	67	ギャラリー	144.96	104	自動販売機コーナー	18.47
55	警備員室	16.80	68	常設展示室4、5	237.60	105	倉庫2	8.82
56	救護室	13.20	69	常設展示室2、3	427.68	106	旧正門警備員室	17.55
57	特別展示準備室	72.00	70	常設展示室1	273.18	107	インフォメーション	—
58	特別展示室2	324.00						



2階平面図



3階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡		
79	会議室	86.40	92	廊下	66.24	延床面積 11,363.93 ㎡ 内訳 ・展示部門 4,984.38 ㎡ 展示室 (3,711.96 ㎡) その他 (1,272.42 ㎡) ・収蔵部門 1,416.90 ㎡ ・管理部門 4,962.65 ㎡ その他 建築面積 4,529.57 ㎡ 内訳 ・本館 4,512.02㎡ ・旧正門警備員室 17.55㎡	
80	資料熟覧室	43.20	93	特別展示室3	151.20		
81	応接室	43.20	94	学芸事務室	226.80		
82	館長室	43.20	95	ロビー	51.84		
83	ロビー	51.84	96	副館長室	26.88		
84	電話交換機室	16.53	97	男子便所	9.00		
85	男子更衣室	10.56	98	女子便所	6.12		
86	男子便所	9.00	99	湯沸室	3.42		
87	女子便所	6.12	100	調査研究室2	21.12		
88	湯沸室	3.42	101	調査研究室1	26.88		
89	女子更衣室	10.32	102	廊下	66.24		
90	図書室	38.40	103	収蔵庫1	712.80		
91	書庫	94.20					

■環境整備と施設設備の保全（平成25年度実施）

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期した。

- ・防災訓練（消防、地震） 平成25年 7月9日（火）、平成26年 1月30日（木）
- ・自家用電気工作物電気保安検査 平成25年11月11日（月）
- ・施設設備の保守業務委託、小破修繕の実施

資料

1 年度別当初予算一覧

(単位:千円)

年度	管理運営費	施設設備管理費	展示事業費	博物館資料収集管理費	教育普及活動費	特別展開催及び準備費	ゆめ・体験ひろば事業費	調査研究事業費	展示解説員運営費	その他	計
昭和 47	35,454	12,742	11,000	38,198	7,283	12,000					116,677
48	32,248	14,620	7,093	57,873	3,789	12,000					127,623
49	22,420	14,513	11,933	53,100	3,779	12,000					117,745
50	32,442	17,631	14,520	34,176	5,253	12,000					116,022
51	34,693	15,371	12,214	26,920	3,597	12,000					104,795
52	41,369	16,133	12,243	37,752	4,610	12,000					124,107
53	41,742	17,055	12,939	33,369	4,228	13,000				2,500	124,833
54	42,197	17,579	13,024	34,759	4,365	15,000				5,600	132,524
55	39,121	18,311	14,614	35,121	4,421	18,000				6,000	135,588
56	55,188	19,633	16,107	38,529	5,199	18,000				5,563	158,219
57	54,073	19,916	13,890	29,318	5,628	10,550					133,375
58	53,036	19,529	11,078	30,033	6,892	19,702	17,955	573			158,798
59	52,506	19,744	14,843	74,507	4,027	26,769	13,221	652		2,000	208,269
60	49,017	20,765	13,498	37,447	3,812	55,311	11,021	652	22,109	1,800	215,432
61	48,482	22,857	12,354	34,128	3,661	31,232	9,732	621	27,304	1,800	192,171
62	44,429	22,316	11,177	34,113	3,483	45,696	9,403	621	28,202	2,900	202,340
63	41,680	22,128	10,853	33,736	3,299	36,312	9,084	621	28,377	1,457	187,547
平成 元	39,656	23,168	11,885	37,268	3,302	82,042	8,724	625	29,203	1,538	237,411
2	42,835	23,637	13,426	35,733	2,671	52,089	7,042	596	30,270	1,493	209,792
3	40,865	24,487	15,911	34,666	2,857	72,646	6,127	604	30,425	1,493	230,081
4	40,521	25,448	13,727	35,115	3,099	48,260	7,351	600	32,971	13,949	221,041
5	40,272	25,804	13,551	34,107	3,356	44,834	7,135	600	34,442	8,050	212,151
6	38,154	24,909	11,458	31,487	3,020	37,744	6,408	540	37,283	14,944	205,947
7	37,340	24,799	8,695	26,551	2,209	30,635	5,441	518	38,047	9,513	183,748
8	37,803	24,787	6,757	22,963	2,218	43,203	7,900	293	38,493		184,417
9	39,067	24,962	6,269	19,489	2,393	33,851	7,210	235	39,028	41,706	214,210
10	37,002	23,713	5,893	16,175	1,828	26,073	6,366	171	38,321	26,995	182,537
11	34,384	23,872	5,361	14,464	1,813	21,628	6,357	152	38,321	1,982	148,334
12	31,980	24,436	5,731	9,852	1,653	17,859	4,605		37,565	1,491	135,172
13	33,180	24,341	5,598	7,404	1,844	12,025	5,392		34,491	1,196	125,471
14	35,819	24,121	5,438	6,158	2,052	12,331	2,959		34,516	1,166	124,560
15	35,496	23,430	4,560	5,539	1,414	10,955	2,074		31,881	1,164	116,513
16	35,060	23,425	4,484	5,211	1,882	11,862	1,832		26,570	1,153	111,479
17	57,764		38,804	7,083			4,108				107,759
18	57,812		38,298	8,784			3,326				108,220
19	57,682		37,026	8,445			5,195				108,348
20	54,952		35,169	8,021			5,474				103,616
21	53,606		31,504	7,683			5,215				98,008
22	51,557		31,651	7,030			4,865				95,103
23	50,672		40,354	6,576			5,149				102,751
24	54,605		33,326	8,646			4,268				100,845
25	53,092		41,305	6,233			3,991				104,621
26	55,789		39,144	6,327			4,032				105,292

2 入館者数の推移

年 度	開館日数	利用人員	1日平均 利用者数	備 考	年 度	開館日数	利用人員	1日平均 利用者数	備 考
昭和 46	114 日	40,830 人	358 人		平成 元	279 日	118,696 人	425 人	含入場者数
47	294 日	112,002 人	381 人		2	283 日	117,217 人	414 人	〃
48	282 日	93,688 人	332 人		3	280 日	111,762 人	399 人	〃
49	278 日	98,034 人	353 人		4	275 日	103,686 人	377 人	〃
50	281 日	105,959 人	377 人		5	242 日	93,441 人	386 人	〃
51	281 日	99,042 人	352 人		6	278 日	95,401 人	343 人	〃
52	283 日	120,085 人	424 人		7	282 日	119,952 人	425 人	〃
53	280 日	120,029 人	429 人		8	279 日	147,425 人	528 人	〃
54	281 日	132,210 人	470 人		9	280 日	110,760 人	396 人	〃
55	281 日	127,766 人	455 人		10	279 日	108,711 人	390 人	〃
56	279 日	127,723 人	458 人		11	281 日	132,205 人	470 人	〃
57	258 日	95,810 人	371 人		12	282 日	102,760 人	364 人	〃
58	220 日	83,817 人	381 人		13	287 日	113,248 人	395 人	〃
59	280 日	115,970 人	414 人		14	288 日	107,833 人	374 人	〃
60	277 日	140,644 人	508 人	含入場者数	15	285 日	123,416 人	433 人	〃
61	281 日	166,393 人	592 人	〃	16	294 日	113,807 人	387 人	〃
62	281 日	138,289 人	492 人	〃	17	269 日	105,107 人	391 人	〃
63	280 日	131,013 人	468 人	〃	18	310 日	134,251 人	433 人	〃
					19	250 日	131,150 人	525 人	〃
					20	308 日	144,538 人	469 人	〃
					21	184 日	90,477 人	492 人	〃
					22	208 日	93,138 人	448 人	〃
					23	305 日	133,160 人	437 人	〃
					24	310 日	126,886 人	409 人	〃
					25	311 日	119,953 人	386 人	〃
					合計	11,740 日	4,948,284 人	421 人	

3 所蔵資料数(平成26年3月31日現在) 123,037点(+1,067点)

絵画	(+43点) 1,489点	工芸	(+157点) 1,253点	彫刻	(+5点) 35点	書跡	(+4点) 171点
歴史	(+272点) 46,975点	民俗	(+586点) 67,060点	考古	6,024点	模型	30点

4 特別展・企画展一覧

年度	春	夏	秋	冬
昭和 46			埼玉百年史	
47		縄文の美となぞ	アイヌ文化展	関東の鉄仏
48		寺内萬次郎展	台湾の民具	昔の旅
49		足軽胴と陣笠	東北の美術	小村雪岱展
50	原始の世界	埼玉景勝30選展	斉藤与里展	
51	永田二郎展	埼玉の張り子展	さいたまの肖像展	近代埼玉の書
52	中野四郎作品展		戦国武将展	はにわ展
53	埼玉のやきもの	近世埼玉の文人展	奥原晴湖展	
54	弁当箱にみる用と美		絵馬展	胎内納入品をもつ仏像
55	大久保喜一展		文化財保護法施行30周年記念埼玉の指定文化財展－美術工芸品	板碑展
56		編む	江戸のよそおい	木と漆の原始工芸 －寿能泥炭層遺跡出土品展－
57			古代東国の薨	
58			新装開館記念特別展 武蔵武士	荒川の漁具・漁・祖おやの譜録
59	浮世絵	埼玉・岩手文化交流展 北武蔵 杖刀人とその時代	埼玉・岩手文化交流展 縄文の風景－大地と呪術－	江戸の風俗 －絵筆が語る町人文化－
60	宿場	激動の昭和	(外) メキシコの民芸 －太陽と神々の匠たち－	かお
61	古代の祭祀	(外) 古代メキシコ・オルメカ 文明展	海上之邦おきなわ	武蔵ゆかりの武器・武具
62	秩父－繭そして信仰－	収蔵品展	(外) 埼玉県・山西省友好省 締結5周年記念－山西省文物展	遊びとおもちゃ
63	日本のあけぼの	収蔵品展	さいたまの円空	古墳－かざり大刀の世界－ 世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－
平成 元	世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－ 比企－丘陵に生きた人々の暮らしと文化－	収蔵品展	(外) クイーンズランド文化展 －姉妹州の4万年の歴史－	酒の文化史
2	さいたまの海 －縄文人からの伝言－	収蔵品展	南蛮の美術 －異国にあこがれた武将たち－	お金百態－寄託資料 埼玉銀行コレク ションを中心に－
3	音のかたち－日本の音を探る－	収蔵品展	開館20周年記念展 さいたま の名宝 国宝・重要文化財	喫茶の考古学－茶の湯再発見－ かたどられた祈り－木・紙・藁の フォークロア
4	かたどられた祈り－木・紙・藁 のフォークロア	江戸のからくり夢空間－近代科 学事始	はなのいるはうつりにけり な・・・歌仙絵の世界	鯨絵－鯨が踊れば世も動く－ つぼ・かめ・すりばち－中世のや きものと暮らし
5	つぼ・かめ・すりばち－中世の やきものと暮らし	河童VS天狗 －人と妖怪の交流史－	甦る光彩－関東の出土金銅仏－	奉納された道中アルバム －絵馬にみる寺社参り－
6	相撲－むかしきけちゝぶ殿さへ すまふとり－	子育ての原風景 －カミの子からムラの子へ－	検証！関東の弥生文化 －一粒の米が変えたくらし－	最新出土品展 さいたま地中からのメッセージ
7	観・天・望・気 －お天気の世界－	最新出土品展	古代東国の渡米文化	美の匠たち－日本刀をめぐる“わ ざ”の世界－
8	美の匠たち－日本刀をめぐる “わざ”の世界－	最新出土品展	太平記絵巻の世界	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～

年度	春	夏	秋	冬
9	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～	最新出土品展	女帝明正天皇と将軍家光～松平信綱とその時代～	人形と張り子 桜花爛漫
10	桜花爛漫	最新出土品展	女性はにわーその装いとしぐさー	さいたまの鉄道
11	さいたまの鉄道	さいたま最新出土品展 '99	アイヌの四季と生活 ー十勝アイヌと絵師・平沢屏山ー	さいたまの名宝シリーズ2 ゆ～お風呂の文化史～
12	ゆ～お風呂の文化史～	最新出土品展	一象がゆくー将軍吉宗と宮廷雅	発掘された日本列島2000・さいたま出土品展
13		発掘調査速報展	埼玉の名宝シリーズ3ー神楽の風景ー	めざせ日本の近代化 ～日本の産業育てた渋沢栄一～
14	KEMARIー蹴鞠ー	発掘調査速報展	開設四百年 中山道ー武州往来ー	
15		埼玉の名宝シリーズ4 めざめろ古代ー新指定の考古資料ー	平林寺	銀座復興絵巻
16	銀座復興絵巻	埼玉県発掘調査速報展2004	国宝太刀・短刀と太平記絵巻	羽子板の美とわざ 年中行事絵巻
17	年中行事絵巻	あの遺跡この遺跡ー埼玉発掘50年史ー	刻まれた鼓動 ～歎喜院聖天堂の彫刻建築～	
18	芸能絵巻～舞い踊り囃す～	天下をまわって1300年 お金がめぐる社会史	由来 伝来 名刀の一千年	祈りの風景 埼玉の絵馬
19	祈りの風景 埼玉の絵馬	博物館発→ちいさな旅ー埼玉遊覧案内ー	お伊勢さんと武蔵	日本の色彩～藍・紅・紫～
20		埼玉サッカー100年	名もなき至宝ーうけつがれし重要有形民俗文化財ー	誕生 武蔵武士
21		いただきます～食の文化史～	出張博物館in深谷	雑兵物語の世界
22	雑兵物語の世界	ヒーロー参上	仏教伝来 埼玉の古代寺院	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道
23	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道	あそび漫遊	円空 こころを刻むー埼玉の諸像を中心にー	大名と藩-天下泰平の立役者たち-
24	大名と藩 -天下泰平の立役者たち-	にはん美術夏期学校	職人のわざとカター商品の誕生ー	埼玉歴史街道 I -『新編武蔵風土記稿』の世界-
25	発掘された木の道具	絵で語る埼玉の民話 -池原昭治 童絵の世界-	狩野派と橋本雅邦 -そして近代日本画へ	圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～
26	渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 -Attic Museum-	にっぽん歴史街道 江戸の街道(みち) ～絵図でたどる宿場と関所～	甦る鉄剣	埼玉の自由民権

利用案内

◆展示室等の観覧について

1 開館時間

午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

※7月1日から8月31日までは、午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

2 休館日

- (1) 月曜日（ただし祝日及び振替休日は開館）
- (2) 年末年始（12月29日から1月1日まで）
- (3) 館内消毒及び展示替えのため休館（6月16日から6月23日まで及び12月8日、12月9日）

3 展示解説

- (1) 各展示室では、学芸員、ボランティアが御希望に応じて解説・案内します。
- (2) 団体見学の場合は、10日前までにお申し込みください。

4 観覧料

- (1) 常設展示：

一	般	300円（200円）	※（ ）内は団体（20人以上）料金
	高校・学生	150円（100円）	
- (2) 特別展・企画展は別に定めます。
- (3) 次の方は無料で観覧できます。
 - ① 義務教育終了前（中学生以下）の方
 - ② 障害者の方（身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている方）
 - ③ 上記障害者の介護の方（障害者一人につき一人）※ 65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により、平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。

5 観覧料の免除とその手続き

- (1) 次の場合は、「観覧料等減額（免除）申請書」に、実施計画書等を添付のうえ、観覧日の10日前までに提出していただくことにより観覧料を免除します。
 - ① 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する幼稚園、保育所園、小・中学生の引率の方
 - ② 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する高校・大学生・各種学校等の生徒とその引率の方
 - ③ 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、他の地方公共団体が開催する歴史と民俗の博物館の資料に関する事業（講演会、講習会、研究会等）を企画した主催（引率）の方
 - ④ 埼玉県又は埼玉県教育委員会が開催する全国会議・ブロック会議・研修会等に参加し、会議又は研修会の日程の一環として観覧する方
- (2) 次の場合は、視察依頼書を提出していただくことにより観覧料を免除します。
 - ① 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、地方公共団体又は市町村等関係機関関係者で、歴史と民俗の博物館の事業及び施設設備の視察を目的とした観覧
- (3) 次の場合は、インフォメーションにお申し出いただくことにより観覧料を免除します。

- ① 教育課程に基づく学習活動のための下見をする方
- ② 歴史と民俗の博物館に資料を寄贈、寄託している方
- ③ 歴史と民俗の博物館が発行する優待券、招待券、ボランティア登録証をお持ちの方

6 問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 総務担当
 電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆講堂・講座室について

1 施設の概要

- (1) 講 堂 面積 227.52㎡ 収容人員 162人
- (2) 講座室 面積 60.48㎡ 収容人員 30人

2 利用料金

種 類	項 目 (貸 出 単 位)	金 額
施 設 使 用 料	講 堂 (1 時 間)	620円
	講 座 室 (1 時 間)	160円
附 属 設 備 使 用 料	音 響 設 備 (1 回)	110円
	ビ デ オ プ ロ ジ ェ ク タ ー (1 回)	830円

- (1) 附属設備については、利用開始からその日の利用終了までで1回とします。
- (2) 使用料が減額又は免除になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

3 注意事項

- (1) 次の場合、施設の御利用はできませんので、御了承ください。
 - ① 博物館の管理上支障があると認められるとき。
 - ② 公共の福祉を阻害するおそれがあると認められるとき。
 - ③ その他博物館の設置の目的に反すると認められるとき。
- (2) 施設利用を許可するにあたり、必要がある場合は、条件を付したり、制限を加えたりすることがあります。
- (3) 施設を利用できるのは、開館日の開館時間内のみです。
- (4) 利用時間には、準備及び片づけの時間も含まれます。
- (5) 利用を終了したときは、施設の状態を速やかに利用前の状態に戻してください。
 施設や設備を損傷したり、備品等を紛失したり損傷したりしたときは、それを修理し、損害を賠償していただきます。
- (6) 附属設備、長机、予備椅子を利用したい場合は、事前に申し出てください。
- (7) 研究会等で図録等を販売しようとするとき、又は特別の設備等を利用しようとするときは、事前に申し出てください。
- (8) 講堂・講座室は地下1階にあり、エレベーター、スロープ等はありません。
 階段昇降機が設置されておりますので、車椅子で御利用になる場合は、職員が操作いたします。
 遠慮なくお申し出ください。

(9) 展示室は有料となりますので、展示室を御利用の際は観覧券をお買い求めください。

4 利用申込み

- (1) 原則として、利用日の属する月の3か月前の初日（その日が休館日である場合にはその翌日）から、利用日の7日前（その日が休館日である場合にはその前日）までに、埼玉県立歴史と民俗の博物館事務室まで「施設等利用（変更）許可申請書」を提出してください（原則として事務室まで直接お越しください。）。空き状況は電話で確認することができます。4月から5月までに使用されるための予約については、受付できない期間があります。
- (2) 予約及び申請の受付時間は、開館日の開館時間内のみです。
- (3) 申請に基づき、「施設等利用（変更）許可書」及び使用料の「納入通知書」を発行します。
- (4) 使用料については、「納入通知書」により、最寄りの金融機関等で納入期限までに納入してください。

5 申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 施設担当
電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆資料の写真原板使用及び資料写真撮影・熟覧について

当館の所蔵資料で写真原板があるものについては有料で御利用いただけます。
また、保存上などで問題がない資料については、写真撮影・熟覧をお取り扱いいたします。

申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964

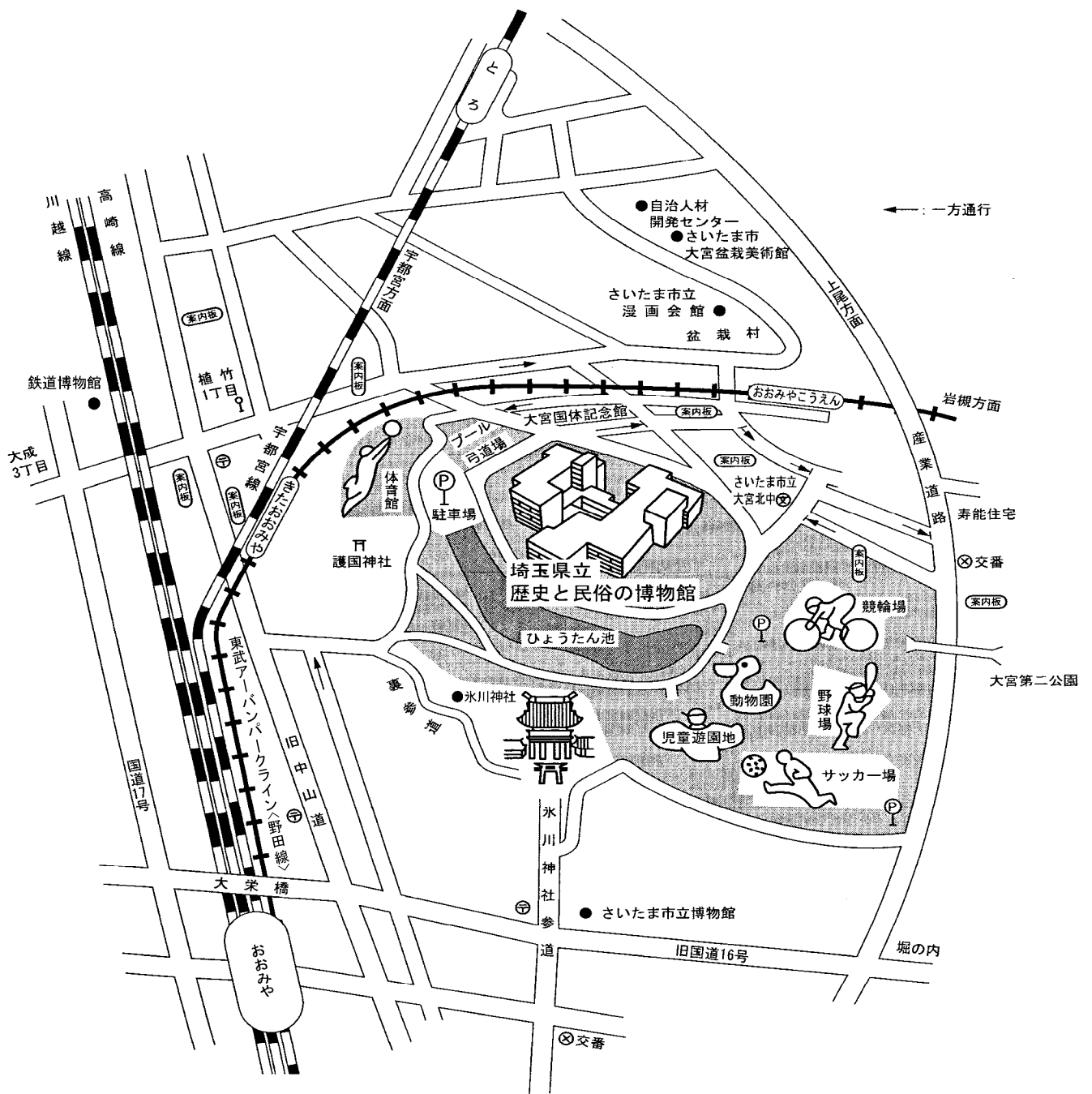
◆資料の寄贈受入について

資料の寄贈希望がある場合は、資料調査・活用担当に御一報ください。事前調査をしたのち、書類手続きを行います。その後、資料評価会議に諮り、審議したのち正式に受け入れます。

※ 当館の資料受入基準から外れるもの、すでに同様の資料が収蔵されている場合などは、事前調査をすることなくお断りする場合がありますので御了承ください。

申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964



◆交通案内

東武アーバンパークライン<野田線> 大宮公園駅下車 徒歩5分
 JR宇都宮線 土呂駅下車 徒歩18分



埼玉県のマスコット コバトン

平成26年度 埼玉県立歴史と民俗の博物館要覧（第9号）

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地

TEL 048-645-8171（学芸）

TEL 048-641-0890（総務・施設）

FAX 048-640-1964

ホームページURL <http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

発行：平成26年7月